

2012年1月13日

megmin さんの仰る「分離」の終着点が暗黒の三日間ですね。

ということで、突然ですが暗黒の三日間が起こった時の様子を記述したいと思います。何かの参考にして頂ければ幸いです。

この三次元空間には、無数の霊的な空間が折り重なって存在しており、暗黒の三日間が起こる直前にその無数にある霊的な空間の全ての分離が始まります。これによって、同じ場所に居ながら、全く違う三次元空間を光景を見ると共に、天国的空間へ行く人、また地獄的空間へ行く人、また新しい地球という空間に残る人の 三つに分かれます。

といっても善人が天国的空間に行き、悪人が地獄的空間に行く、という単純なものではありません。あんな悪人がなぜ天 国的空間に？ とか、あんな心の清い人がどうして地獄的空間に？ というケースもあります。なぜそういうことが起こるかという、その人の心の状態はその 人にしか判らないからです。たとえば相手の悪口を言っているようで、実は霊的にその悪口を言う相手を実に巧妙に導いている場合や、相手に一生懸命アドバイスをしているようで、霊的にみると実はその人の足をどこまでも引っ張っている、またひどい場合にはその人を食べ物にしている場合もあります。たちが悪いのは食べ物にして居ながら、自分は一生懸命相手にアドバイスしてあげている、と思い込んでいるところです。そのような方は次元上昇し始めた時に気付くのですが、もう時すでに遅しです。

どちらにせよ、結局その人の心はその人にしか判りません。外からどんなに不幸に見えても、またどんなに心が荒んでいるように見えても、当の本人はそこで自ら生まれる前にプログラムした魂の課題をやり抜いて、いざという時が来た折にはすんなりとアセンションする場 合もあります。また普段どんなに口で幸せだと自分に言い聞かせたり、周りに言ったりして、自分自身の心の浄化はある程度済んでいてアセンションへの準備は もう万端だろうと思っ ても、いざ肝心の次元上昇が始まった時、その方のアセンションが始まるどころか、自分でも思わぬネガティブな感情がそこで湧き上 がって来て、自分ではどうにもならないままに破壊的な衝動に走ってしまい、気が付けば自分一人だけがアセンション出来なかった、ということもままあること です。

さて話を戻します。

暗黒の三日間が起こる時、地球では人間がもう過ごせないほどの天変地異になりますが、そのこと は気にしなくてよいです。なぜならその天変地異は、暗黒の三日間の後の新しい

世界を始めるためのお色直しの側面が強く、その時にはもうそれぞれの魂のあるべき姿が決定しているからです。言うなれば、何かの合格試験の終わりのチャイムがなり、受験生たちが教室から出て行く傍らで、担当の先生なり教授なりが教室の後片付けをしているようなものだからです。今私たちが注意すべきことは、暗黒の三日間の中で起こる天変地異をどう過ごすべきか、ではなく、暗黒の三日間が起こった時、自分の心の状態がどうか、ということです。

言うまでもありませんが、上のたとえ話の「チャイム」が「暗黒の三日間」に当たります。また、この試験はチャイムと同時に合否がくっきり見えてきます。つまり、暗黒の三日間の最中にはっきりと結果が出て来るということです。

暗黒の三日の間、自身の意識の裏側にあった無意識が、今度はあなたの意識そのものを支配し、表に出て来ることとなります。そしてこの時、あなたが表だと思っていた意識、つまり表層意識が今度は裏に回るようになります。これが起こると、今までの自分の使ってきた言葉、心、行動が、一気にこの「今」という現実には押し寄せて来ます。それは巨大な津波のようなもので、今までの自分の表層意識は、それにすっかり飲み込まれてしまいます。

ですから、今までの自分自身の言葉、心の有り様、そして行動が善的なもの、つまり愛に満ちていれば、その無意識の巨大な津波は災害ではなく、自分という意識を救うノアの箱舟となりますが、逆に悪的なもので憎しみに満ちていれば、その憎しみが自分という意識を飲み込み尽くし、どう頑張ってもそれを振り切ることはできません。

たとえて言うなら、自分は人を殺したくないのに、そんなことは微塵も思っていないのに、自分の身体が勝手に動いて、たまたまある目の前のナイフを取り、自分でも「え？ なにこれ？ え？」と思い、自分の意識ははっきりしているのに、まるで誰かが自分の身体を操っているように、事に至ってしまう、ということです。

これだけでも十分怖いのですが、本当に怖いのはその後で、いざナイフで刺してしまうと、ものすごい快感が体中と心中に電撃のように走ります。一番最初「自分は人を殺したくないのに。」と思っていた意識が、瞬時にして「ああ私が長年追い求めていたものは、これだった！！ もっと人を殺したい！！」「殺してやる！！」という心になり、実際に刺したすぐ様、また他の誰かを殺そうとします。

念のため言っておきますが、これはあくまで「たとえ話」であって、そうなる、ということではありません。それでも、もし万が一そのような状態に陥りそうになった時は、その

憎しみに満ちた自分自身を抱き締める感覚で、全身全霊で許してあげて下さい。そうすれば、元々そのようなことをする必要がないことを「憎しみに満ちた自分」がそこで気付くことが出来、冷静になれます。力が抜けます。

またこれとは逆に、愛に満ちた言葉や心や行動を使ったりしてきた人は、その時点で、自分がどんなに悪いことを考えようとしても、考えようとする先からすーっと消えて行きます。さっき言ったように、今まで溜め込んできた無意識が、自分の意識を支配するので、意識的に悪を思おうとはもう思えなくなるのです。そして目の前の世界が愛に満ち満ちています。他人様を見るだけで、まるで神様のように映って思わず拝みたくなるほどで、また実際にその他人様も愛が溢れていて、自分を同じように大切に扱ってくれ、また神様のように拝んでくれます。自分からすれば、もう勿体無いやら有り難いやらで、こんなに幸せでいいのかしら、と思うぐらいです。また空を見上げれば本当に美しく見えます。空だけでなく、目の前の全ての世界が光り輝いていて、自分がすでにここに存在していること自体が祝福されている証なのだと思えます。そしてその事が、魂の奥底にまで染み渡ります。もはやこれは神の世界と言っても良い位で、この世界が今までいろいろと聞かされて来たアセンション後の世界なのか、と絶句するほどです。言葉で表現できないぐらいの、本当に素晴らしい世界です。

さて、此処まで読んだ人の中で、暗黒の三日間なのだから、当然周り全てが暗黒で、そんなことは起こらないんじゃないか、と思う人も居るかもしれませんが、実際に起こります。そしてこれが最初にお話した、無数の霊的な空間が分離する、ということです。

どうということかという、暗黒の三日の間で人のDNAに変化が起きると言われていますが、そのDNAの変化に伴って、実は第三の目も強制的に開くことになっています。簡単にいうと、夜眠った時に見る夢のように、それぞれの人の心の中にあるものが目の前に現れます。目の前に現れるというよりも、目の前の世界そのものが自分の心の中そのものとなるわけです。当然、一人一人の心の中は違うので、見ているビジョンも違います。

そしてここが普通の夢と違うところですが、そこでみた光景が、それぞれの人の住む世界になります。夢では、どんないい夢や悪い夢を見ても、朝になれば消えてなくなります。暗黒の三日間の中で見るビジョンが、その人にとっての現実になります。

暗黒の三日間に突入すると皆、肉体的に仮死状態になり、その中でそれぞれのビジョンを見ることになるわけですが、この時、DNAの変化によって肉体の構造が原子レベルから変わることによってアセンションする人、また、肉体から霊体が抜け出し、脱皮するようにそのままアセンションする人、また極度の天変地異によって肉体が亡びて、そのままあの世へ

行き、あの世でカルマの清算の続きをする人、また肉体から霊体が抜け出すには抜け出す
が、その霊体が憎しみなどの重きもの に囚われているので、そのリハビリのために、一時
的に別の霊的な空間へ移動する人に分かれていきます。

また念のため話しておく、暗黒の 三日間の時、宇宙船が助けに来るなどの話もあるよう
ですが、それはありません。宇宙船自体は来るかもしれませんが、それは地球という受験
会場に来た、他の 星の方々が自分の星へ帰るための迎いの船であり、さっきのたとえ話で
いうと、試験が終わってそれぞれの受験生を迎えに来る親御さんの車のようなものです。
もしかしたら、この記事を見ている中で宇宙船に乗る方もいらっしゃるかもしれませんが、
それは助けられるために乗るのではなく、本来の自分の星へ帰るため であるので、同じこ
とです。地球で得た体験や理解こそがその人にとっての掛け替えのない魂のお宝そのもの
であり、宇宙船に乗れるか乗れないかは、全く関係 ありません。

少なくとも宇宙船が来て助けてくれるかもしれない、と置いていらっしゃる方は、この地
球でのアセンションするという目標を、自ら捨てていることを自覚しておいたほうがいい
でしょう。それはちょうど、自分が受けるべき試験を、誰かのほかの、たとえば家庭教師
とか親などに代わりに 受けてもらおうとする行為と同じことです。

皆様が、一人残らずアセンション出来ますように・・・。

by 暗黒の三日間 (2012-01-13 20:54) □

2012年1月15日

ada755様。まずは、あまりにも突拍子のない内容であるにも関わらず、わざわざのご紹介頂きありがとうございます。

先の記事がもし掲載されることが無いのであれば、これ以上は何も書くつもりはなかったのですが、ご紹介頂いたので引き続き次のお話に移りたいと思います。前回はほんの触りのことしか書けませんでした、今回はさらに踏み込んで書かせてもらいます。本当に時間がないので、形振り（なりふり）構わず書かせて頂きます。また、それに伴って内容も常識的な範疇から前回にも増して逸脱してしまうことを、また前回よりもかなり長文になってしまうことを、どうぞお許してください。

そしてそれぞれ、心の奥から、また直感によってこの文章をご判断下さい。さらに言い添えておくと、この文章の内容が怪しそうだ、ウソっぽい、でたらめだ、とお思いの方はどうぞ読まないで下さい。そのような方々は、元々この文章を読む必要のない人です。念のため、そのことを最初に断っておきます。

ということで、今回は暗黒の三日間が起こって行く時の地上的観点から見た様子、また暗黒の三日間に伴うクオラムリープ（＝量子的飛躍）による私達の意識の変化、及びアセンション後の世界について述べさせていただきます。

過去の時点では「暗黒の三日間」と「クオラムリープ」は別々に起こるという、同じ激変のシナリオではあっても、多少は穏やかな形でアセンションを迎えるシナリオもありましたが、残り時間が迫って来たこの今では、この二つの現象が同時に起こる可能性が高いことを先に述べておきます。

そして、そのお話をする前に、まず最初に暗黒の三日間が来なければならない意義についてお話したいと思います。

まずお話ししなければならないのは、今年の3、4月までにこの「暗黒の三日間」が来ないと、早ければ3月の始め、遅くとも4月中にハルマゲドンが来る可能性が限り無く高い可能性で、おそらく100%に近い確率で起こるということを申し上げなければなりません。巷で言われている、中東での核戦争のことです。

また日本は日本で同じように春マケドンとなり、3、4月ごろに東海・東南海・南海地震の三連動大地震が来る可能性が非常に高いです。今の段階では、これも同じくほぼ100%

と言わざるを得ません。というよりも、今年の3、4月までに「暗黒の三日間」が来ないと必ずそうなります。

これがどうしても暗黒の三日間が来なければならない理由です。何としてでも今年の3、4月までに「暗黒の三日間」を実現させなければなりません。もうすでに「暗黒の三日間」はいつ起こってもおかしくない時期に入っています。今この瞬間に起こってもなんら不思議ではありません。あとは私達の意識にかかっているだけです。

少し話が脱線しますが、ミノリス様の「暗黒の三日間の予言（預言）」は非常に的確なものでした。加えて、わざわざ日にちを言ったのも、一日も早く「暗黒の三日間」を実現させなければならないという確固たる意志からであり、これは完全なる愛からの行動です。

がゆえに、指定した日にちに「暗黒の三日間」が起こらなかったのは、偏に私達の意識がまだまだ目覚めていなかった何よりの証であり、暗黒の三日間が起こらなかったことで、私達はかなり手痛い事態に陥って居ることを深く認識しなければなりません。

話を戻します。

この東海・東南海・南海地震の三連動大地震が来る前兆として、最初は北海道の根室沖か十勝沖で中規模程度、また実害がほとんど無い形での大規模な地震が起こり始めます。マグニチュードにするとM6.5からM7.5程度の範囲と見て良いです。が、実害がほぼ無いこともあって、人々はいつもの地震、或いは去年の大地震の余震程度に考える程度です。この実害が全く無い、または実害が限り無く小さいのは、神様の尽力によるものですから、この地震が起こった時、神様に感謝してください。そして気付いてください。出来ることならば、まだ起こっていない今から気付いてください。意識を常にオープンにして居てください。

そしてさらにその北海道で起きた地震は、その起こる位置を徐々に南下させつつ、三陸沖から房総半島沖にまでその規模を拡大させながら、ひょっとしたら最後は、去年と同じぐらいの規模（=M9.0程度）の地震が房総半島沖で起きるかもしれません。しかしその可能性は低いと見て良いです。しかしM8.0ぐらいまで拡大する可能性は十二分にあります。どんなに小さくともM7以上はあるとお考え下さい。そして、こちらの方は何らかの実害があるとお考え下さい。

ですので、今から大難が小難になるように祈っていて下さい、と口を大にして言いたいところなのですが、それは各々の自由に任せられているので、私からは何も申し上げるこ

とが出来ません。しかしこの記事を見てピンと来た方は、ぜひ祈ってください。というよりも、そのような方は私がわざわざ言わなくても祈っていることでしょう。

またその一連の地震の流れを注意深く見ていると、まるで地中、海中を這う巨大な龍神が北海道から千葉県に移動しているように見えるでしょう。しかしそれすら、今回の本丸ではありません。問題なのはその後で、その比較的大きな地震が起こって日本中の人々の意識がそこに集中する中で「次は首都東京直下地震か？」などと騒がれ始めるころに、その東京を飛び越えて、東海・東南海・南海地震の三連動大地震が突如起きます。

さらに突っ込んで言うと、首都東京から見れば、東の方では房総半島沖大地震が起き、西の方では東海・東南海・南海地震の三連動大地震が起き、それに挟まれる形で身動きが全く取れない中で、最後に首都東京の直下地震、またはほぼ直下での地震が起こり、東京は火の海の地獄絵図になります。口に出すのも辛いことですが、その時逃げようと思っても、東にも西にも逃げる事が出来ない、という最悪の状況が待ち受けています。

そのようにして、今お話しした一連の流れが今の時点から3、4月までに起こり、3、4月の時点でその流れは最高潮となり、全てが弾けます。全てが、です。

その時世界を見渡しますと、その日本の大地震に呼応するかのように、中東が核戦争のハルマゲドンに突入しています。また日本でも同じように、その大地震から来る原発関連事故の核爆発の放射能漏れによって春マケドン（＝ハルマケドン）となっています。

であるがゆえ、何としてでも3、4月までに「暗黒の三日間」を実現させなければなりません。もうあれこれと議論をしている暇はありません。もう「暗黒の三日間」でしか、皆で一緒にアセンション出来る道はない、とお考えください。

信じられない方は、私のお話を鼻で笑って頂いて結構です。しかしこの記事を見て、何かピンと来る方がおられれば、これから毎日、出来ればその意識の許す限り「暗黒の三日間により全ての身魂が救われました。ありがとうございました。」と過去完了形で祈ってください。

すでにご存知の方も居るかもしれませんが、最近マヤ暦の終わりが2012年12月ではなく、実は2015年の9月であった、というお話が出て来ています。人によっては「またか！！」と思う人や、「そらみろ。2012年はやっぱりノストラダムスの二番煎じだったじゃないか！！」「ざまあ、みろ！！」などなど、いろいろと揶揄する人も居るかもしれませんが。しかし、なぜ最近になってこの説が出て来たのかよくお考え下さい。

結論を言ってしまうと、当然 このスケジュールが表に出て来たことには深い意味があり、それは今年の3月、4月までに「暗黒の三日間」が来ないと、2012年の春ごろから2015年秋ごろまでの約三年半（＝約42ヶ月）に、想像を絶する艱難辛苦が待っていますよ、ということです。

本当に口に出すのも辛いことですが、この約三年半の艱難辛苦のシナリオに突入すると、まさに地獄絵図です。今も日本は放射能に苦しんでいます、今の苦しみとは比較にならないほどの放射能が蔓延する中、東京を始めとした主要都市はまさに廃墟と化し、見渡す限り全てが死体の山です。つまり見渡す限りの地平線一杯まで、全て死体が転がっているという、それはもう気が狂わないほうがおかしいような悲惨な光景です。また、かろうじて残った人も重度の放射線汚染により、もはやヒトとしての形をしていません。肉塊一歩手前の虫の息となっています。そして、その見渡す限りの死体の山からの腐敗臭がものすごく、もう目も鼻も口も開けてられない状態で、息すら出 来ないほどです。場所によっては、その死体の群が白骨化し尽くして、まさに何処を見ても「終末世界」そのものの光景が広がっています。

もうここまで来ると、世の政治家様方や社会や他人様方にいろいろと不満をもらしていた自分が、どれだけ幸せな境遇に居たか痛感し、どうか、どうか心を改めますから神様もう本当に許して下さい、と神様に全身全霊でお詫びして、この時間と空間を巻き戻せたらどんなに良いか・・・、と強く願うのですが、もう時すでに遅しで、どうにもならない現実、ただただ立ち尽くすままに、最後は残念無念の極みの中で死んで行かざるを得なくなりません。

その中でも何とか軽度の被爆で済み、運良く生き残った方々は安全な所へ逃げようとしませんが、しかしもうどこに逃げていいのかわからず途方にくれ、いつ自分は死ぬのか、という恐怖感の極みの中で生きていかなければなりません。また、その時にはもう食料や水の調達もままならないので、逃げるその先で死んでいく方々も多数います。また、やっとのことで調達した食料や水も極度の放射能に汚染されていて、今の通常感覚からすれば避けるであろう、その汚染された食物や飲み物も、それを口になければ生きて行けない、という本当に「生きるも地獄、死ぬも地獄」という、泣くに泣けない悲惨な状態になります。

さらにもっと運が良く安全な所へ逃げられた方も、逃げた先の現地の人から被爆者として疎まれる可能性が高いです。避難した先の近くの原発がそこでまた核爆発を起こす、という可能性もあります。しかしその時にはもうテレビもラジオも無いし、そもそも放送もしていないので、確認できないでしょう。

そして仮に、その避難先で熱心に介抱して頂けるような現地の方に出会えたとしても、命からがら逃げてきたご本人は、ただただ今までの自分の言動を反省するばかりで、身も心も辛いまま死んで行くことになります。その方の献身的な介抱の愛の前に、自分ももっと、ああしておけばよかった、こうしておけばよかった、もっと周りの人に思いやりを持って、愛を持って接して居ればよかった、と後悔の極みの中で朽ち果てて行くのです。

それにも増して悲惨な方々が居ます。それは今の社会の中で、社会的地位が高い方やお金持ちの方々の中で、自分だけは助かろうとして外国へ逃げて行く方々です。厳密にいうと、日本に住んでいるか外国に住んでいるかは問題ではなく、そのようにして「自分だけは助かろう」と思う方の心が、それ相応の現実を凶らずとも引き寄せてしまう、ということです。

この方々は、事が起こる前か、また事が起こり始めて、もう日本はどうみても潰れると見るや否や、まだ「円」の価値がある内に、全財産を金（きん）などを始めとした安全な資産に変え真っ先に外国に移りますが、先ほども申しましたように、世界では中東の核戦争から始まり、さらに激しい諍いや争いがそこら中の国で噴出しているのです、その逃げた先で疎まれます。

もちろんその方々は自らの地位や財産を駆使して、どうみても一番安全な所だと思ふ所へお逃げになるのですが、外国人から見れば「日本人なのに日本の国を捨てて来た人」ということで、大切に扱ってはくれませんし、それどころか、その方の持つ財産を根こそぎ奪おうとします。また、自分勝手な振る舞いをされるその方を見て、長らく貧困や差別に苦しみぬいて来た現地の方々の恨みの対象となり、悲惨な殺され方をされる場合もあります。また、その方が仮にそれを避けるために持てる財力を使って傭兵などを雇う、などという場合でも、その雇った傭兵に殺されるかもしれませんし、またどんな頑丈なセキュリティを有した家に住んでも、今度はそのセキュリティを作った、まさにそのセキュリティ会社の者が、その方の知らないうちにそのセキュリティを無効にして一切の財産をかすめとる、というようなことも出て来ます。因果応報の法則は、愛ある人には永遠に通じる神の法（=宝）ですが、愛無き人には永遠に自分に迫ってくる神の法（=砲）に成り得ます。

何を大げさな、そんな事があるはずがない。私は必ず逃げ果（おお）せて見せる、とこの文章を見て、もしお思いの方がいらっしゃれば、悪いことは言いません。思い留まったほうが、あなたの身のためです。身どころか、あなたはそのような悲惨な死を遂げた後も、本当に辛い思いをしなければなりません。肉体を脱ぎ捨てて、想念だけとなった時の痛みや苦しみは肉体がある時の比ではありません。

なぜそこまで言えるのかというと、その時はすでに日本のみならず、世界中が無政府状態になっている可能性が非常に高く、何でも有りの世界に突入しているからです。同じ「疎まれる」ですが、日本の中で疎まれるのと、外国の中で疎まれるのでは本当に桁が違います。自ら蒔いた種とは言え、本当に気の毒の極みです。

当の逃げたご本人達は、日本からうまく逃げ果（おお）せたと、ほくそ笑むでしょうが、その時点での外国諸国は、その方達にとっては重度の放射能汚染に苦しむ日本よりも一段も二段も上の危険な場所になっており、自ら進んでその危険極まりない場所に入っていることに、当のご本人達は気付いていません。

といっても日本の国が安全で外国が危険だ、または日本の国に居るのが良く、外国に居るのが悪い、と言っているのではなく、私達がいくら万物の長といっても、そのままでは水の中で息が続かないように、それぞれのやるべきこと、居るべき場所というものがあり、日本という国がそのような艱難辛苦の中にあるのを尻目に見つつ、同じ日本人でありながら日本の国を捨てて外国へ逃げることで自分がその方にとって最も危険な行為だ、ということです。

さらに言うと、日本の中で社会的地位や、また大きな財力があるということは、日本の国でやるべき役割がとても重い立場にあるということであり、その立場を捨てて外国へ逃げるということは、まさにその立つべき場所を、足場を放棄していることになり、身慾からただただ逃げることは、まさに立つ瀬がない状況を自ら一生懸命作っていることに他なりません。

また、日本中の放射線汚染により、外国は日本を助けようと思っても近寄ることすら出来なくなります。というよりも、世界からみれば中東の核戦争から始まって、外国の諸国もそれに伴っていくつかの国は内乱の極みに陥っているので、日本を構っている暇などありません。自分の国のことで精一杯になります。

逆から言えば、今年の3、4月までに「暗黒の三日間」が来さえすれば、これらの三年半の艱難辛苦を体験しなくて済む、というこれ以上ないメグリ（カルマ）の免除を経て、すんなりアセンション出来る、ということです。

いろいろと話が脱線して前置きが長くなってしまいましたが、とにかく3、4月までに「暗黒の三日間」が来るしか、もう皆が救われる道はないとお考えください。もちろん、この春からの三年半の艱難辛苦を経ることでアセンションするという道もあるにはありますが、それはものすごく遠回りな、辛く苦しい道のわりには、得るものが大変少ないことを心に

留めておいてください。

言い換えるならば、それはつまり三年半の艱難辛苦経由のアセンションでは、約70億人居る中のアセンションに挑戦する人類の、ほぼ全員がアセンションに失敗する、ということです。

もう一度言いますが、ほぼ全員です。約70億人居る中でアセンション出来る方がたった数人、場合によっては一人か二人、という想像を絶する悲惨な状況になる、ということです。

なぜかという、本来の予定では三度に渡ってマスアセンションが起こる機会があり、順次覚醒した者からアセンションを果たし、その三度の機会によって緩やかに、そして速やかに今回の地球でのアセンションを終える予定が、人類の意識の覚醒が遅れに遅れたために、また一人でも多くの方がアセンション出来るようにと計らった天上界の動きもあって、目に見える形での大きな変化が、大規模なマスアセンションがキャンセルに次ぐキャンセルとなり、今回の一度っきりのアセンションをする機会へと集約されて来たからです。

そのために、良きにせよ悪きにせよ、この現実世界に出て来る現象を顕現させるエネルギーが無限大にまで膨れ上がり、最大のチャンスと最大のピンチが同時に来たような様相になっています。ですので、今回の「暗黒の三日間」を逃せば、全員がドボンする可能性が限り無く高い、というよりも、このまま今年の3、4月までに「暗黒の三日間」が起きなければ、ほぼ全員の方のアセンションは失敗する、と見て良いです。

本当に前置きが長くなってしまいました。

最初に申し上げた、暗黒の三日間が起こって行く時の地上的観点から見た様子、また暗黒の三日間に伴うクオンタムリープ（＝量子的飛躍）による私達の意識の変化、及びアセンション後の世界については、次回に書かせて頂くことに致します。

皆様が、一人残らずアセンション出来ますように・・・。

by 暗黒の三日間 (2012-01-15 20:48) □

2012年1月17日

さて、今回は先に申し上げた暗黒の三日間が起こって行く時の地上的観点から見た様子、また暗黒の三日間に伴うクオントムリープ（＝量子的飛躍）による私達の意識の変化、及びアセンション後の世界について書かせて頂きます。

まず最初に、矛盾しているように聞こえるかもしれませんが、先に示したハルマゲドンのシナリオはお忘れください。なぜなら、ハルマゲドンが起こるその前に「暗黒の三日間」が起こるからであり、先のシナリオはハルマゲドンを回避させるために書いたシナリオであるからです。

では早速本題へ。

まず「暗黒の三日間」が起こる時が昼間だった場合を書き記したいと思います。その場合は、空に浮かぶ太陽が、まるで電球や蛍光灯が徐々に消えていくようにその光を発しなくなります。それはちょうど夕暮れ時に太陽が見る見る内に地平線の彼方へと沈んでいって、空が一瞬一瞬暗くなる様相を、ちょうど早送り再生したような現象になります。時間はそんなにかかりません。数分か十数分の間でそれは完了します。しかしどの人も初めての経験であるので、半ば夢見心地のままそのドラマチックな展開を体験し、まるで一瞬にして「暗黒の三日間」に突入したように感じることでしょう。また、これは時間が急速にその速度を速めていることと無関係ではありません。そしてさらに「暗黒の三日間」に突入した後すぐに、身体中に特殊な違和感を感じるようになります。

また逆に「暗黒の三日間」が起こる時が夜間であった場合を書き記したいと思います。この時は街中の電気が消え、その他の明かりはなくなるので、文字通り一瞬にして世界が真っ暗になったような感覚になることでしょう。また眠っている場合でも、「暗黒の三日間」が始まったことで身体中に特殊な違和感を感じ、その違和感で思わず目が覚めます、というよりも意識がその違和感に集中しているだけなのですが、しかし目を開けていても目の前が真っ暗なので、すぐには何が起こったのか理解できない人も居ることでしょう。

また肉体的に見れば「暗黒の三日間」が起こって目の前が真っ暗になった直後、気を失い、仮死状態になっています。といってもこれは眠るような感覚で、気付いたらそうなっている類のものなので何も心配はいりません。これは磁場が完全に消滅するに従って、その磁場に乗っかっている通常意識が消えてしまう、というよりもエーテル体・アストラル体・メンタル体・コーザル体などのそれぞれの意識体が順次一つの意識に統一されて行く過程が始まったためです。これが先に述べた「特殊な違和感」の正体です。

また、この「特殊な違和感」の中で人々はいろいろなビジョンを見ることになります。人によってはこのビジョンを見る中で、何日も、或いは何週間も経ったように感じることもありますが、実際には暗黒の中の三日の間での出来事です。またこれはエーテル体などの意識体に溜まった霊的な汚れ、と言うと大げさなのですが、ちょっとした想念のお掃除の意味も含まれています。そのビジョンを見ることで、人によっては思わぬ感情が噴出して来ることもあるかもしれません。しかし心配することはありません。すでに「暗黒の三日間」が起こったというその事実が、アセンションを達成させたこととほぼ同義であるからです。

このビジョンを見るという現象は、平たくいうと新たなお引越しをするために、今まで住んでいた家の最後のお掃除をするような、そのような意味でありますので、大きく構える必要はありません。また、今までの三次元的世界での自分自身の体験を総括する、という意味で取って頂いても構いません。どちらにせよ、どこまでも愛を意識して、そのビジョンを見ていれば問題ありません。また、もしかしたら自分は愛を意識出来ないかもしれない、とお思いの方も心配はいりません。そのビジョンは、いわば自分の今生を含めた無数の輪廻転生の中での貴重な体験を、ちょうど思い出のアルバムのように見るようなものですから、そのビジョンを見ている内に、自然と何ともいえない懐かしさや、愛しさが込み上げて来ます。

また相対的に見て、そのビジョンの最初の部分では辛い感情や悲しい感情を体験するかもしれませんが、それらのビジョンが次々変わって行く中で、徐々に楽しい感情や嬉しい感情を体験して行くことになります。もちろん最初から楽しい感情や嬉しい感情を体験する方もいらっしゃるかもしれません。また、辛い感情や悲しい感情を感じて居る時も、どこかでその感情を体験している自分とは違う別の自分が居て、その「辛い感情」や「悲しい感情」そのものが愛しく、また懐かしく感じます。

再度言いますが、これは何かの試験ではなく、すでに「暗黒の三日間」が起こったこと自体がアセンションを達成させたこととほぼ同義であるので、「暗黒の三日間」の中で起きることは全て必要なことであり、またこの上無い喜びであることを覚えておいて下さい。

さらに詳細に申しますと、その「特殊な違和感」に突入した時には、まず最初に全身に程よい熱さを感じたような感覚になります。そして、その温度が徐々に上がっていくように感じます。さらにその過程の中で、まるで自分の肉体の細胞一つ一つが空間に溶け出して行き、自分自身が消えて行くような感覚に陥ります。人によっては身体中に全身火傷を負い、自分の身体が徐々に溶けて行くような恐怖感に囚われる方もいらっしゃるかもしれま

せん。そう思うてしまうのは、その時すでに「暗黒の三日間」に突入している影響で、自分の姿を全く見ることが出来ないことと、また何が起きているのか理解できないことから、その「特殊な違和感」を今までの三次元的な体験に当てはめようとするところから起きて来る感覚です。

そのような感覚を抱いてしまった人は、この現象は全くの愛から来て現象だと可能な限り自分に言い聞かせ、どんなに怖くとも、その時は文字通り命をかけるつもりで、その流れに身を任せることが大事です。その焼けるような熱さをどこまでも肯定し、知らぬ間に力んでいる全身の力を抜き、その全てを受け入れることです。そうすれば、その熱さはこの大いなる浄化の過程を拒絶している自分の意識そのものが引き起こして居ることが判ります。また客観的に見るとそれは、エーテル体などの各意識体の統合を拒絶することによって、それぞれの意識体が摩擦することから起きて来る現象です。

・・・と、このようにして冷静に説明を聞き、頭では判っては居ても、いざその時になれば怖い人は怖いでしょうから、とにかくその感覚の中で分けが判らなくなった人は、全身の力を抜いてください。そして怖い思いのまま構いませんので、神様に感謝してください。「神様ありがとうございます。」と祈ってください。

客観的に見ればそれは大いなる喜びであり、これまで待ちに待ったアセンションが始まった証でもあるのですが、初体験というのはある意味恐ろしいもので、つつい恐怖心に支配されがちです。しかし全く心配はいりません。それはたとえるならば、子供が初めて自転車に乗る訓練をしているようなものです。頭にはヘルメットを被せてもらい、頼りになる両親がどうあっても転ばないように、絶対に怪我しないように、と、いつでも手で支えられるように後ろで待機しているようなものです。全くもって、安心して居ていいです。

それでもどうしても、どうしても安心出来ないと仰る方、またそのように思われてしまう方は、最悪、その恐怖心に支配されたままで構いません。なぜなら、そのように思われてしまう方は、この三次元世界の長きに渡る体験の中で、「自分は恐怖心は持つてはいけない。」「いつも自分はいま物事を達成させなければならない。」というような、一種の想念の癖のようなものが出来上がってしまっていて、無意識の内に「怖い」という、まさに自らの心の中心、自らの身体を中心から来る素直なメッセージを、いつも否定してしまっているからです。そのような方は「暗黒の三日間」の中で、その「どうにもならない恐怖心」を体験することで、徐々にその「どうにもならない恐怖心」の中にある、本当の自分の気持ちに気付かれて行きます。その時初めて、その「どうにもならない恐怖心」という、今までの自分では理解できなかったものが、また言葉では説明できなかったものが、一体何だったのかを知ることになります。そのようにして「どうにもならない恐怖心」の中に存在

している「本当の自分の気持ち」を徐々に知って行くことによって、今までの恐怖心が無くなって行きます。そしてそれは同時に本来の素直な自分、本来の晴れ晴れとした自分へと戻って行くプロセスでもあります。

なぜそれが可能になるかという、他の誰とも接していない、自分の意識の他には何も無い、という特殊な環境を「暗黒の三日間」が見事に作り上げているからです。まさに、この「暗黒の三日間」という特殊な環境があるお陰で、それぞれの方が本当の自分の心と、自らの本心と真っ向から向き合うことが出来るわけです。そのようにして、その「暗黒の三日間」の中で自らの本当の心に気付き、そしてその本当の心のそのままに出て来る自分と成っていくことが、先に申したエーテル体などの各意識体が一気に統合されて行く、ということでもあります。

もちろんそれまでに準備が出来た方、つまりそのままにして愛に満ち溢れている方にとっては、その体験はもっと違う想像力の中で展開されます。まるで自分自身がどこまでも解放されて、より高い次元で世界との、宇宙との一体感を味わってらっしゃいます。その幸福感は今まさに生まれんとする生命の歓喜の声を、そのままにして聞いているようなものです。まさに宇宙の究極にして、かつ一番基本的な属性である「創造性」の醍醐味を味わっているためです。その方は喜びに満ち溢れたまま、そのままにして次の段階へ進むことになります。

ということで、その次の段階の説明に移りたいと思います。その身体中が熱くなるような感覚の後、今度は身体中がスースーと風が当たっているように気持ちよくなって行き、熱かった感覚から一転して、今度はちょうど良い涼しさを感じるような感覚になって行きます。そしてその涼しさと共に、何かとても言い表せないような心地よさが自分の身体中を、意識中を包みます。

実はこの時、濃密な肉体が半透明の肉体になって行く様を示しています、アセンション達成の最終段階です。すなわち今までの肉体では無い肉体、つまりライトボディ化している真っ最中ということになるわけですが、もうその時は、ただ心地よい感覚に身も心も任せればかりで、ああ今わたしはライトボディ化しているのか、などという思考すらさっぱり忘れていきます。というよりも、もうこの段階になると、どの方もすでに意識の総括は終わっているのです、ライトボディがどうの、という余計な思考をしていることも無いのです。

くどいようですが、いざ「暗黒の三日間」に突入した時、ものすごく熱い思いをしたらどうしよう、とか、自分はすんなりこの涼しい感覚になれるだろうか？ などと思い悩む必要は全くありません。どのような道を辿ろうとも、全てがアセンションの完了というその

一点に繋がっていますから心配は不要です。また「暗黒の三日間」が始まった時に、そのような思考状態に陥る必要も全くありません。「暗黒の三日間」の中で恐怖感を味わった方は、それが必然だったのです。そしてそれが最善だったのです。また、その「暗黒の三日間」の中でとんでもない至福感を味わう方も同じです。私はこんな大それた至福感を味わう資格なんて無い、などと考える必要もありません。ただ流れにその身と心を任せれば良いだけです。「暗黒の三日間」は、まさに神様のこの上ない愛の表現である、ということをお先ず頭に入れておけば、「暗黒の三日間」が起こり始めたその瞬間に、自然と喜びとワクワクした心が弾け出して来るはずですよ。

そしてこのようにして、その「暗黒の三日間」の中で濃密な肉体が、半透明の肉体になって行くことが、クオントムリープ（＝量子的飛躍）そのものです。

さて、またちょっと長くなってしまいましたので、ここで一区切りしたいと思います。アセンション後の世界については、また次回に持ち越させて頂くことに致します。今回もこのような突拍子もない長い文章をご覧頂き、ありがとうございました。

皆様が、一人残らずアセンションできますように・・・。

by 暗黒の三日間 (2012-01-17 22:26)

(質問 1)

いつも拝見しています。

最近暗黒の三日間さんが登場して一気に話が濃くなってワクワクしながら見えています。

そこで質問があります。暗黒の三日間の間仮死状態で完全に一人になるとありました。

私には妻と小さな子供がいます。特に子供はこの三日間不安で寂しく辛い思いをするのではと心が張り裂けそうな位心配です。

何も知らない子供達はすんなり三日間過ごせるのでしょうか？

また、三日間が過ぎたらまた再会出来るのでしょうか？

by 酔ごぼう (2012-01-18 00:24) 2012年1月18日

(回答) 2012年1月18日

酔ごぼう様へ

質問にお答え致します。

結論から先に言いますと、そのようなご心配は全く必要ありません。

完全に一人になるという意味は、自らの意識の中において一人になる、ということです。一概には言えませんが、小さいお子さんはむしろ我々よりも、その「暗黒の三日間」の中で、より創造的なビジョンを見ている可能性があります。

また、今生ではまだ小さなお子さんで頼りないように、守ってやらなければいけないように見えるかもしれませんが、現実世界においてはもちろんそうですが、しかし魂的に見れば、我々よりも数段上の世界を生きて来られた、逞しい存在である可能性もあるわけです。もちろんそうでない場合もあります。

しかしどちらにせよ、今回の「暗黒の三日間」は今生だけでなく、私達が想像するよりもずっと長い期間の中で見た区切りです。何万年、或いはもっと根源的な視点から見れば、何十億年というスパンから見た区切りですから、肉体的に見てまだ小さいからあの子は大丈夫だろうか、或いは逆に、もうご老体のあの方は大丈夫かしら、などと心配する必要は全くありません。別の言い方をすれば、今回の「暗黒の三日間」の中で体験することは、今生を含めた無数の生をひっくるめての自らの意識の総括となっていますから、今生での姿形は全く気にする必要はありません。そしてその「暗黒の三日間」の中での体験は、今までの自分の全てを総括する意味でも大変貴重な体験です

が、同時にその「暗黒の三日間」の後で生きて行く新しい次元の視点からみても、大変貴重な体験と成り得ます。

なぜなら、その「暗黒の三日間」の中での体験が、今の次元での一番最後の体験になると同時に、新たな次元を生きる一番最初の体験にもなるからです。そして新たな次元は常に永遠性の中にありますから、その一番最初の体験はいつまでもその方にとっての、最初の起点になります。もちろん、今のこの段階でも私達は永遠性の中で存在しているのですが、今のこの次元の中では、中々判りにくいという事情があります。とはいっても、もうすぐ来る「暗黒の三日間」を通じて新たな次元に入れば、その「永遠性」というものがどなた様にもくっきり判ると思います。

また、その「暗黒の三日間」の中でのビジョンは、それぞれの想念が一致すれば、そのビジョンを共有することが出来ます。これから話す内容は、ちょっと理解しづらい所もあるかもしれませんが、このたとえ話を通して、だいたいの感じを掴んで頂ければ幸いです。

とある所に、恐竜がとても好きな小さなお子さんが居ました。そのお子さんは、いつも図鑑などを眺めては、夢中になっていました。親御さんから見ると、一つの恐竜の絵を何分も、また何十分も眺めて、何がそんなに楽しいのか、と首をかしげるほどですが、しかし本人がそれで楽しいのなら、と特に気にはしていませんでした。一度「その図鑑、そんなにおもしろいの？」と聞いたことがあります。お子さんは図鑑から目を離さずに無表情のまま「うん。」と答えるだけです。親御さんにとっては、そんなにおもしろいのなら、どうしてもっと笑ったり、もっと目を凝らして見る、などという動作をしないのだろう、と思いつつも、親御さんにとってはその図鑑を読んでいる時は静かにしているので、またせっかく集中して眺めているので邪魔しては悪いと、それ以上あれこれ言うことはしませんでした。

実は誰にも言いませんでしたが、そのお子さんは、その大きな恐竜の背中にいつか乗ってみたいと思っていました。また空を飛ぶプテラノドンなどの翼竜にもいつか乗ってみたいと思っていました。傍目には、じっと見ているように見えて、そのお子さんは常に想像力をフル回転させて、頭の中でいつも恐竜と遊んでいたのです。親の質問に無表情に「うん。」と答えていたのは、頭の中のその楽しい遊びに夢中で、また邪魔されたくなかったのも、ほとんど親の質問を聞き流していたからでした。

そして、お子さんはこうも思っていました。図鑑で見る恐竜はすごくカッコいいのですが、しかし同時にものすごく怖くもあり、その姿にちょっとした違和感を持っていました。そ

のお子さんの頭の中では、恐竜はもっと親しみやすく、満面の笑みで自分に話しかけて来るはずなのです。

そんなことを思っている日常の中で突如「暗黒の三日間」が起こります。そのお子さんは、半ば放心状態のまま仮死状態に突入しました。そして例によって、そのお子さんもいろいろなビジョンを見ることになります。

気付くとそのお子さんは、図鑑の中で見た恐竜時代の風景のような、そのような場所の真っ只中に居ます。上を見れば翼竜が何体も飛んでおり、遠くの方には大きな恐竜がドシンドシンと大きな音を立てて歩いています。お子さんは独りぼっちで怖い思いをすると同時に、おかしいな、あんな怖い恐竜ばかりじゃなくて、もっと自分と友達になってくれるような恐竜もいるはずなのに・・・と辺りを見渡して見ると、生い茂ったジャングルの中で、小さなピンク色の子どもの恐竜が、怯えたようにこっちを見えています。

お子さんは、自分も怖かったのですが、子どもの恐竜とは言え、自分の身体の何倍もある恐竜が怯えているのを見て、なぜだか安心感を覚えて、さらにこの子どもの恐竜と友達になりたい、と思ったのでした。そして思い切って、そのピンク色の小さい恐竜に話かけることにします。他の怖い恐竜には自分の言葉は通じなさそうでしたし、そもそも怖いので近寄ることも出来ませんでした。その小さい恐竜には何だか話せるような気がしたのでした。

そして、話しかけると実際に言葉が通じました。その小さい恐竜は、元々別の場所で住んでいたのだけれど、誤って自分の住むべき場所とは違う所に来てしまった、と言っていました。そして、あの洞窟を抜ければ、自分の居るべき場所に戻れるのに・・・と、その大きな前足を洞窟の方へ突き出したのでした。

お子さんは半ば反射的に、じゃあボクも一緒に行ってあげるよ、と言いました。ピンク色の子どもの恐竜は最初は「本当に？」などと言っていましたが、お子さんがなんども「うん！！」と頷くので、最後にはとても嬉しそうにしていました。そうして、ピンク色の子どもの恐竜とお子さんは、洞窟へと入っていきます。

しかしそうは言ったものの、お子さんはとても怖い思いをしていました。その洞窟はとても真っ暗で本当に何も見えなかったからです。でも、この小さな恐竜の為だ、と必死に怖いのを堪えてがんばっていました。そうしてぶるぶる震えながらも進んでいると、あることに気付くのでした。何も見えないけれど、隣でドスンドスンと足音が聞こえます。ピンク色の恐竜の足音でした。自分の足音はその大きな音にかき消されて聞こえませんでした。

が、しかし、しっかりと大地を踏む感覚と、その大きな音に、とても安心感を覚えるのでした。

そうこうしているうちに、向こうの方にうっすらと光が見えて来ました。出口です。そしてふと足元を見ると、錆びた赤色の土がその出口までずっと続いています。お子さんは、ああ、洞窟の中の地面はこういう風になっていたのかあ、と思っていると、隣に居たピンク色の恐竜が「もうすぐだよ！」と、話かけて来ました。すでに声が嬉しそうです。きっと、ピンク色の恐竜にとっては、やっと安心できる領域へと辿り着いたことで、緊張が一気に解きほぐされたのでしょう。

さて、一方「暗黒の三日間」に突入した時、同じように親御さんであるお父さんも仮死状態になっていました。そして例によって、いろいろなビジョンを見ていました。普段ならもうとっくに終わっているはずなのに、やり続けてもやり続けても終わらない仕事にヒイヒイ言っているビジョンや、仕事の同僚がなぜか、この前行った同窓会のメンバーに入れ替わっている、という自分でもよくわからないビジョンや、また昔していたバンドを、なぜかその頃の若い自分に戻ってまた同じように楽しくバンドをしているビジョンなどを見ています。そのようにして、じゃあそろそろ家に帰るよ、とバンドのメンバーに別れを告げ、なぜか自然とそのバンドをしていた頃に住んでいた安アパートに帰ろうと思ったその瞬間、今住んでいる家のことや子どものことなどを思い出して、まるで雪崩のように自分の心に迫ってきます。そういえば自分の子どもはどこにいったんだ、と慌てふためきます。そして、我が子の名前を呼び続けます。気が付けば、住み慣れた我が家のリビングで、心配でたまらない自分が居ました。

さて、その頃、お子さんは最初に見た怖い恐竜の世界とは全く違う世界にいました。風景は最初の恐竜世界と変わらない感じなのですが、しかしそこには仲良くなったピンク色の恐竜さんのような雰囲気をもった優しそうな恐竜が一杯いました。大人の恐竜もいました。そして、いろいろと話たり、その大きな背中に乗ったりして遊んでいたのですが、急に、誰かが自分の呼ぶ声を聞きます。

と、その瞬間、その声の主であるお父さんのことを思い出すのでした。

その瞬間、全く別々のビジョンを見ていた二人がつながります。

お子さんはお父さんのことを思い出したその瞬間、今まで目の前で繰り広げられていた恐竜の世界の空間が、すっかり見慣れた我が家のリビングの空間に変わっていました。そして隣にお父さんがいました。

また、お父さんの方から見たビジョンでは、お子さんの名前を何回か呼び続けても、何の応答もなかったのですが、さらにもう一回子どもの名前を呼んだその瞬間、気付けば目の前にお子さんがいました。

お父さんは、心配のあまり思わずお子さんを抱き締めました。そして気分がようやく落ち着いたところで「今までどこにいたの？」と聞きます。お子さんは、今まで夢中になって遊んでいた恐竜の世界のことを話し始めました。初めは怖い恐竜ばかりだったけれど、ピンク色の子どもの恐竜と友達になって、それから真っ暗な洞窟を一緒に進んで、それを抜けると優しい恐竜が一杯いる場所に出て、今の今まで遊んでいたんだ、と言いました。

お父さんはそのお話を聞いてすこし興味を持ち、我が子が楽しんでいるその恐竜の世界をちょっと覗いてみたい、と思いました。そして、その世界を一緒に体験してみるのもおもしろそうだな、と思いました。

・・・と思ったその瞬間、お父さんとお子さんの二人は、その優しそうな恐竜の居る空間に居ました

。そしてお父さんは、お子さんが仲良しになったというピンク色の子どもの恐竜を紹介されて・・・。

・・・という風にどこまでもビジョンは続いて行きます。

今回は、お母さんの存在は省略したような感じになってしまいましたが、要するに酔ごぼうさんの意識がお子さんなり、奥様なりに向いていれば、絶対に繋がっていますから大丈夫だ、ということを申し上げたかったわけです。

だいたいこんな感じで、説明を終えさせて頂くことにします。

ちなみに、ここまでのビジョンの実質的時間は数分、多く見積もっても5分ぐらいです。こう聞くと、中には自分が見るビジョンは辛いものばかりで、その暗黒の三日の間、ずっと自分は辛いビジョンばかり見なければならぬのではないだろうか、だとしたら私はそれに耐えられるだろうか、等々思う方が、ひよっとしたら居らっしゃるかもしれませんが、しかし同時にその時、私達の意識も拡大の一途を辿っているのです、より短い時間でより多くの情報を処理できていますから、そのような心配は要りません。「暗黒の三日間」の中では、まさにそのような「自分には辛いことばかりが起こるかもしれない。」という、その思い込みを全て外すためにビジョンを見るわけですから、何も心配する必要はありません。

なぜなら「暗黒の三日間」の中では、先にも述べたように通常私達を感じている表層意識だけでなく、より深いレベルの意識との統合も果たされるがゆえ、普段の自分の意識では到底考えられないような意識も昇ってくるからです。

さらに言いますと、中には二つや三つのビジョンを並行して見つち、それらを同時に処理しながら、それぞれのビジョンの中で得る感情や体験を味わう方もいらっしゃると思います。今の段階では、ちょっと想像出来ないかもしれませんが・・・。

今回もまた長くなってしまいました。ここまで読んで頂き、ありがとうございました。皆様が、一人残らずアセンション出来ますように・・・。

by 暗黒の三日間 (2012-01-18 23:25)

暗黒の三日間さん、丁寧に教えて下さりありがとうございました。

突然やってくる三日間が仕事や学校などで家族バラバラの時に来たらすごく嫌だと本当に心配していましたが、これで胸のつかえは取れました。逆に楽しみになりました。

教えて頂いた例えはまさに毎晩見る「夢」のような感じに覚えました。意識を向けた瞬間そのシーンががらっと変わったり、自分が学生時代に戻っていたりでそれと同じ様な印象を受けました。

ただ違うのはその「夢」は意思をもった家族なり友人なりに自分の意思で会えたり、相手の思っている事も共有出来たり、思う時代や場所に行けたりしそうな事だと理解しました。

以前は2012年の12月に何もかも終わるからと投げやりになりそうな時もありましたが、今はその時が来るまでこの世の中で後悔の無い様日々を頑張ろうと思える様になりました。

暗黒の三日間さん、本当に詳しく教えていただきありがとうございました。また、この場を提供して頂いた ada755 さんも本当にありがとうございました。

by 酔ごぼう (2012-01-19 15:10)

(質問 2)

「お祈りの対象は？」

このお話を、宇宙空間における一つの可能性として素直に信じてみようと思います。

暗黒の三日間様へひとつ質問があります。

暗黒の三日間の時、感謝する対象はそれぞれが信仰している神仏でよろしいのでしょうか？

キリスト教徒ならイエス・キリストとヤハウエ、
イスラム教徒ならアラーの神、
ユダヤ教徒ならヤハウエ、
仏教徒なら釈迦牟尼仏、久遠元初自受用報身如来、
ヒンズー教徒なら、ブラフマー神、ビシュニュ神、シバ神、
神道なら天照大御神など
となりますが、
各々が信仰している神仏でよろしいのでしょうか？

特に仏教徒は釈尊ご自身が誰かが宇宙を創ったという考え方を否定されておりますので、宇宙を初めもなく終わりもない一つの偉大なる生命体と捉えている人が多いです。仏教では全てを因果と縁起で解き明かそうとするので、創造主を認めると、創造主を創造したのは誰か？と際限なく続いてしまうからだと思います。ですからもし、創造主である神様に感謝するとなると悩みこんだり、拒絶したりする人がかなりいると思うのですが....

私の信仰している仏教の宗派では、久遠元初自受用報身如来（一切の現象の究極・根本という意味で、時間・空間を超越した絶対的な究極の仏様）を信仰崇拝の対象としております。

可能なら御見解のほど宜しくお願いします。

by 地球の日本人 (2012-01-18 23:02)

ソラ

(質問3)

「暗黒の3日間様はミノリス様ではないか？」

初めまして。

「暗黒の三日間」のことをマヤ（キチュー）族長老アレハンドロ・シリス・ペレス・オスクラさんにお会いした際に聞きました。

皆さんもすでにご存知でしょうが、念のため、下記に記しておきます。

マヤ族にも「暗黒の預言」が伝わっています。
そしてこの暗黒の訪れこそ、マヤ暦が終わる合図なのだそうです。

長老は「それが何日続くのかは誰にもわからないが、私たちは太陽が昇らない日を、数日間体験するだろう」と語りました。

「これは新しい太陽を迎えるためのセレモニーで、これまでも何度も地球は体験してきていることなのです。ですから、恐れることはありません」と語ります。

しかし、次の話を聞いて少し怖くはなりました。
というのも、この現象は「太陽系惑星が宇宙のポケットに入り込む体験なのだ」と長老は説明するからです。

「ええ、ブラックホールにでも入り込むのかな！！」などとドキっとしながら話を聞いていました。

そして「暗闇の次に太陽が昇った時、それは新しい太陽であり、新しい時代、新しい暦の始まりです。

もはや人々はパスポートなど持たずに、世界中を行き交うでしょう。世界中の人々が愛し合い、交流しあう時代です」と語っていました。

死者などは出ないのでしょうか？と聞くと、
「出ないとは断言できないが、恐れずにいてください」とのこと。

そして、それが到来する時期に関しては、「それがいつかは分かりません。明日来てもおか

しくないし、10年後かもしれない」と言いました。

また、「マヤ暦は、古代マヤ族にプレアデスからの使者が来て渡されたもの」と語り、「プレアデスから来た数名は、マヤ族とそのまま暮らした」そうです。
そして「暦の終わりがいつかは、マヤ暦の始まりが（文献が焼かれてしまい）今となってはわからない以上、マヤ族にもわからないのだ」と強調されていました。

2012年12月かどうかは「グレゴリオ暦も改ざんされていて、マヤ暦とグレゴリオ暦を同期させることなど絶対にできない」そうですね。

つまり、「来て見なければ分からない。そして、明日来てもおかしくない」ということです。

以上の話は、3年ほど前に直接インタビューして聞いたお話でした。

by ソラ (2012-01-18 23:30)

ゲンテツ

初めまして。貴ブログは時々拝見させていただいております。
ここ3回の「暗黒の3日間」の記事は、とても興味深いです。
この方はミノリスさんですね。

全く同じ個性を感じます。

by ゲンテツ (2012-01-19 14:17)

(回答) 2012年1月19日

暗黒の三日間

地球の日本人様へ

それぞれが信仰している「神仏」で構いません。また、この「宇宙そのもの」でも構いません。

さらに地球の日本人様を含めた皆様方へ

また、念のために書いておきますが、必ず神仏に感謝しなければならない、というわけでもありません。怖いと思う時は神様に、或いはそれぞれの信仰する神仏にお祈り下さい、というだけのことです。もう一度書いておきますが、この「暗黒の三日間」は何かの試験ではありません。もちろん感謝したい人は、どんどんして下さって結構です。その「暗黒の三日間」の感謝の中で、今までずっと信仰して来た神様や仏様と一つになった体験をされる方も、中にはいらっしゃることでしょう。

そしてまた「暗黒の三日間」の中で思うことや体験することは、まさにその人の為の出来事ですから、本来は私があればこれと口に挟める立場にはありません。さらに言うと、私にわざわざ尋ねなくとも、それぞれご自身の本心に聞いてみれば、きっと返答があるはずで、そしてまたこれも当然のことですが、そのご自身の本心の返答の真偽や確認を、わざわざ私に求める必要もありません。なぜなら私などの言葉や説明よりも、ご自身の本心のほうが断然正確ですし、また納得出来る答えであるはずだからです。

といっても、私はこれ以上質問には答えない、と言っているわけではありません。私が答えられる範囲であれば、可能な限りお答え致します。また、お答え出来ない場合もありますので、その時はご了承下さい。さらに言うと、私の答えは絶対ではありませんし、上にも書いたとおり、私の意見や説明よりも、ご自身の本心の方がよっぽど正確で確実なので、そちらのほうを必ず優先させて下さい。その上で、私の意見に同意できるならばして、何かの参考出来るなら参考にして下さい。くどくど感じる方もいらっしゃるでしょうが、念には念を入れて書いておきます。

ちなみに、先のお話で私が、怖い時は「神様ありがとうございます」と祈って下さいと言ったのは、この「暗黒の三日間」の情報の出所の多くが、キリスト教やマヤ族の預言、或いは神道系の神典である日月神示(=ひふみ神示)などなどの、何かしらの信仰や、或いは特定の神様や仏様などに対してのご興味のお持ちの方だけが知っているであろう情報であるからです。

そして、その情報に対して多くの方が、心が浄化されていないといけないだとか、信仰が深くないといけないだとか、そのような誤った捉え方をされているように私自身が感じたからです。それに加えて、今はもう残り少ない時間ですから、今までそのような神典類や、また神様や仏様についての知識を全く知らなかった方々、或いはスピリチュアルな事柄、そしてアセンションの存在を知らなかった方々、さらにはそのような単語すら知らなかった方々も、この「暗黒の三日間」の情報と出会う方々がいらっしゃいます。そのような方々は、自分が何も知らないので恐怖心を抱いてしまうことがあります。私はずっと無

宗教で来たし、今更心を浄化しなさいと言われても、どうすればいいのかわからない、というわけです。ですから、そのような方々の混乱を事前に予防する意味でもそのような表現をした、ということです。

幸い日本人には「神様ありがとうございます」と祈って下さい、と言うだけで通じます。これは大変有り難いことです。さらに厳密にいうと、祈る対象、感謝する対象は神様でなくても良いです。小さなお子さんにあっては、その祈る対象がご両親であったりする場合がありますし、また愛する妻や夫に感謝することで「暗黒の三日間」の中での怖い想いを乗り越えられる方もいらっしゃいます。そして必ずその後で、到底表現出来ないような大きな大きな「愛」を感じるようになります。ですので「神様」というのは、あくまで目安程度とお考え下さい。また、最悪祈る対象が見つからない、または何に感謝していいのかわからない、或いは神様と言われても自分にはよくわからないので不安だ、とお思いの方も心配はいりません。最後は自分の中に居る、もう一人の自分が必ずその不安や心配を中和してくれます。そして必ずその体験の中で、その体験をしている自分自身に感謝するようになります。そして一旦自分に感謝してしまったら最後、もう目の前の世界は、その見ているビジョンは、その瞬間から輝いたものになりますから心配はいりません。

ゲンテツ様へ

ちなみに、私はミノリス様とは別人でございます。

by 暗黒の三日間 (2012-01-19 21:43)

(質問 4)

暗黒の三日間さまお導きありがとうございます

非常に恐縮ではございますが教えて頂きたいことがございます

「ハルマゲドンのことは忘れてください」とありますが要は3~4月までに暗黒の三日間が来る…ということでしょうか？

気が付いたときに完了型で感謝することをしております

出来る限りの伝達を押し付けにならないように思いながらしています

ひとりでも多くの方がアセンションできることを祈ります

その暗黒の三日間がハルマゲドン前に来ないと厳しい世界となるのも分かりました

厚かましい質問で申し訳ございませんが暗黒の三日間は3~4月までに来る、と捉えてよろしいのでしょうか？

by 質問です (2012-01-19 21:18)

(回答) 2012年1月20日

質問です様へ

はい。「暗黒の三日間」は3, 4月までに来ます。というよりも、我々の意識の変化によって「暗黒の三日間」が引き起こされます。そしてなぜ、こうも私が「暗黒の三日間」が来ることを断言するのかを少しばかり述べさせて頂くことに致します。私はかなり前に、D 所長というお方のHPを発見致しました。そのHPにはアセンションについての色々な事が書かれてありましたが、その中に「暗黒の三日間」でしかもはや人類は救われない、というようなことが書かれてありました。その主張に、私の直感が途方も無く共鳴し、それ以来私も「暗黒の三日間」の実現に向けて祈ることにしました。今からもう6, 7年前のことです。

私は現実生活をこなしながら静かに祈っていましたが、去年の11月の下旬ごろにふと「暗黒の三日間」というワードで検索をかけてみた所、今回のミノリス様のメッセージを発見いたしました。そして、そのメッセージがいろんなところで紹介され、また話題になっているのを知りました。

私が驚いたのはそのミノリス様の暗黒の三日間の予言に対してのネット上での広がり方でした。私のそれまでの感覚では、ミノリス様の予言は全く話題にならないままスルーされて消えていくか、或いは話題になったとしてもせいぜい軽い扱いか、揶揄されて終わると

いうパターンであろう、という認識であったからです。なぜなら私自身は「暗黒の三日間」が起こることについて何の疑問も持っていませんが、しかし一般常識からすればずいぶんかけ離れた事象であることもまた事実であるがゆえ、普通に考えれば中々に受け入れられないであろう、という気持ちもよく判るからです。

しかし、その予言を紹介されているHPなどを見てみると「暗黒の三日間」が来るという予言を、前向きに信じられておられる方が何人もいらっしゃったことでした。これは私にとっては青天の霹靂でした。私にとってもずっと「暗黒の三日間」の実現を祈って来たことがありますので、これほどの良い機会は無いと思い、出来れば1月4日からの「暗黒の三日間」の実現によって決着をつけたい、アセンションにこぎつけたい、という思いがあり、私もその実現に向けて祈っておりました。

しかしながら、結果は外れてしまいました。私は正直、最後のアセンションの機会のチャンス逃してしまった、と思いました。自分自身はこれからも祈っていくつもりでしたが、しかし、この予言が外れてしまったことで、多くの方が「暗黒の三日間」の実現への思いを減らし、またその予言を信じておられた方もその流れに追随せざるを得ないであろう、と思ったからです。

この時、私の中では実に惜しいという思いがあり、また今回のミノリス様の予言がなぜ実現出来なかったのかを考えました。結果は「暗黒の三日間」が起こることによって得られる、DNA変化を始めとした多大な恩恵を皆様が知らないからではないか？ さらに「暗黒の三日間」が起こったその時、寒波が来るとか、悪魔が出て来るなどの枝葉の情報によって、逆に「暗黒の三日間」に対して恐怖心をお持ちで、その影響で「暗黒の三日間」の実現しなかったのではないか、と思いました。

これまでは、それぞれの考え方や意志があるので、「暗黒の三日間」の祈りはあくまで自分一人の中で留めてきましたが、しかしまた同時に「暗黒の三日間」の実現が叶わないまま、時間だけ残り少なくなって来た上に、目の前には再び第三次世界大戦の危機が迫ってきたという事実だけが炙り出されて来たように思いました。確かに毎年春ごろになると中東が騒がしくなりつつも、何事も無く過ぎて行きますが、今回は2012年ということもあって、いつものように何事も無く過ぎるとは到底思えませんでした。

そのような経緯から、もう時を完全に逃してしまったと思いつつも何か行動をしなければ、という思いから、一番最初に投稿させて頂いた文章になった次第です。この文章がスルーされるのであれば、もうこれ以上書くこともないだろうと半ば諦めつつの投稿となりましたが、ブログの主であらせられる **ada755** 様を始めとして拾い上げて頂いてありがとうございます

いました。

まだちょっと書き足りない所もありますが、「アセンション後の世界」についての文章を完成させるほうがより重要度が高いと思われますので、今回はこの辺にしておきます。ありがとうございました。

by 暗黒の三日間 (2012-01-20 21:15)

(質問 5)

暗黒の三日間さまに質問がございます

ハルマゲドンが回避される、ということであれば

暗黒の三日間は3~4月には来る、ということでしょうか？

日にち指定はできないと申されましたが

ハルマゲドン回避、となればそれは

3~4月を意味するのでしょうか？

by 伝達者 (2012-01-20 20:02)

(回答) 2012年1月21日

伝達者様へ

いえ、「暗黒の三日間」はすでに今この瞬間に起きてもおかしくありません。一分、一秒でも早く「暗黒の三日間」を実現させ、すみやかにマスアセンションを発動させることが望ましいです。

また、先のお話で「書き足りない所」と書きましたが、まさかその「書き足りない所」に対してのご質問が来るとは思いませんでした。

ということで、今からそれについてちょっと書きたいと思います。書くことは、今私の頭の中にあるおぼろげながらのスケジュールですが、しかしこれに関しては私の感覚からすればこれは確実だ、という自信がありませんでしたので、書くのを控えようと思っておりましたが、それに関するご質問を受けて、一応は書いておきたいと思います。

さて、今の私の頭の中では、日本の春マケドン (=東海・東南海・南海の三連動大地震) への一連の流れが、旧暦の正月 (=新暦の1月23日) から出て来るような感じがしています。また世界のハルマケドン (=中東の核戦争) への一連の流れは、新暦の2月3日か

らさらに加速するのではないかという思いがあります。

といっても、その日に北海道の地震が起こるだとか、その日に中東で何か事が起こるだとか、そういう意味ではございません。あくまで目安程度に留めておいてください。またその一連の流れが起こってくる時期も、多少早くなったり遅くなったりと、ずれる可能性があることも初めに書いておきます。とはいえ、3、4月に春マケドン（＝ハルマゲドン）が起こることは私の感覚からすれば間違いないので、そこの所は押さえて頂きたく存じます。

とはいえ、天の采配というものは我々の意識を超えた所で起こることもままありますので、このスケジュールはあってないようなものだとお考えください。

また、今私の中でミノリス様の「1417」のメッセージは、旧暦の1月4日から1月7日（＝新暦の1月26日から28日）のことではなかったか、という思いもちらっとありますが、こちらの方も断言は出来ません。あくまで一つの考え方として捉えて頂ければと思います。

by 暗黒の三日間 (2012-01-21 11:39)

(質問6)

回答の中にあるように、暗黒の3日間については多くの方が知らないと思います。この3日間は多くの方がゲリー・ポーネルの「光の12日間」とか、アセンションのヌルゾーンという言葉の方が浸透しているように思います。

もちろん、聖書の「ヨハネの黙示録」に「暗黒の3日間」の出来事についての予言があります。そして、一般的な通説となっているのが、18～19世紀のドイツ人の神秘家、尊者アンナ・カタリナ・エンメリックがキリストの生涯と受難を幻視した中で「3日間の暗黒」を見ていた。「全世界が突然の暗闇に包まれ、人工的な光が用をなさない暗黒の日がいつか訪れる」ということから広まっているものです。

そのため、聖書に関心が薄い日本人としては、「ヨハネの黙示録」はある意味、トンデモ類に分類されるので、真剣に考えようとする意識が低いのかもかもしれません。また暗黒＝ダークとも受け取れ、敬遠される傾向にあることもあります。

さらに、暗黒の3日間（アセンション）がもし、起きるとすれば、2012年12月であろうと世界中の人々が思っていることも間違いないでしょう。マヤの予言、タイムウェーブ理論、ハリウッドが繰り出す数々の映画、書籍類はすべてが2012年12月に集中しています。

私自身、人類の覚醒が遅れているというより遅らされている諸因がそこにありそうな気がします。恐らく闇の勢力が意図的に起こした計画的なものと考えられます。もし、暗黒の3日間（アセンションのヌルゾーン）が3～4月に来るとすれば、人類は真実を知らされていないというのが本当のことかもしれません。

そして、昨年11月28日が本当のマヤ歴の終わりの日だったといわれましたが、結局何も起きませんでした。そうすると、「本当は2012年12月なんだ」という意識がさらに強くなるので今年の3～4月というのは誰も思わなくなるでしょう。

ただ、人類の意識は刻一刻と変化を続けているので、この3～4月の暗黒の3日間という情報が広がれば、意識の焦点はそこに集約されていくことになり、実現する可能性が次第に高くなっていくものと思われれます。

私自身の疑問としても、「質問です」様を書いておられるように、なぜ、3～4月に前倒しされたのか？というのがあります。

つまり、2012年12月は嘘の情報（闇勢力による誘導情報）だったのだろうか？
ということです。また、この暗黒の3日間は物理的に考えてアセンションのヌルゾーンが存在するならば必ず起きるものであり、人類の意識状態によってえそれが、なくなることもあり得ることなら、最初からなかったことになるのではないか？という疑問もあります。

(回答) 2012年1月21日

ada775 様へ

まことに勝手ながら、3～4月になぜ前倒しされたのか、という疑問にお答え致します。

といってもその答えは、すでに ada775 様のご自身でお答えになられています。

『私自身、人類の覚醒が遅れているというより遅らされている諸因がそこにありそうな気がします。恐らく闇の勢力が意図的に起こした計画的なものと考えられます。もし、暗黒の3日間（アセンションのヌルゾーン）が3～4月に来るとすれば、人類は真実を知らされていないというのが本当のことかもしれません。』

『そして、昨年11月28日が本当のマヤ歴の終わりの日だったといわれましたが、結局何も起きませんでした。そうすると、「本当は2012年12月なんだ」という意識がさらに強くなるので今年の3～4月というのは誰も思わなくなるでしょう。』

『ただ、人類の意識は刻一刻と変化を続けているので、この3～4月の暗黒の3日間という情報が広がれば、意識の焦点はそこに集約されていくことになり、実現する可能性が次第に高くなっていくものと思われれます。』

そもそも「暗黒の三日間」は2012年12月21日ごろ、すなわち2012年の冬至に必ず起こるものということではなく、むしろその日にちはタイムリミットという意味合いが強いのです。そして「暗黒の三日間」は我々の意識によっていつでも起きる現象です、起こせる現象です。なぜなら私達がこの現実を、そしてこの地球世界を創造しているからです。

私が3、4月までに「暗黒の三日間」が起こると断言したのは、失礼な言い方になるかも

しませんが、私が思っていた以上に皆様の覚醒が進んで居たからです。でないと、今このような話や議論はそもそも起こっていません。

というよりも、アセンションは西暦2000年に入る前には起こっているはずの現象でした。しかし当初の2000年前の計画よりも人類のカルマの生産が多かった、またそれによって人類の覚醒が中々進まない、等々の理由により、ひふみ神示にもあるように「十二年おくれて」しまい、今に至っています。

また闇の勢力側からの視点で見れば、今まで見えて来なかったことが見えて来るはずです。ada755様もご指摘の通り、2012年12月21日ごろに暗黒の三日間が起こる、アセンションが起こる、ということを知り、またそう思わせておけば、人々は自動的に棚からボタモチ的にその日にアセンションできる、或いは2012年の冬至の日に何かが起こって自分は救われるかもしれない、との淡い期待を抱かせることが出来、またそう思い込ませることによって、人類の覚醒をどこまでも遅らせることが出来ます。本来ならばこの「暗黒の三日間」は、マスアセンションは、人々の意識によっていつでも起こせるのですが、その自発的な意識の覚醒を綺麗さっぱり忘れさせることで、彼らは堂々とその裏側で第三次世界大戦などを通して、世界を一つに束ねて全てを牛耳る仕組みを遂行することが出来る、というわけです。

後は2012年の冬至の日が来た時、またその日が過ぎた時、それが起こらないのを尻目に、人々を相手に「そのようなあやふやな予言を信じていないで、私達が提示した仕組みに乗っかれば救われますよ。」「今までの全ての問題がこの仕組みによって解決されますよ。」と、偽救世主を大々的に演出し、その様子を全世界同時生中継などの形を通して、何食わぬ顔で発表すれば済むことなのです。

と、こう書くと、もしかしたらここで疑問を持たれる方もいらっしゃるかもしれません。つまり、人々の意識がその2012年の冬至に集中しているのならば、そして私達の意識がこの現実を創造しているならば、むしろ「暗黒の三日間」なり、マスアセンションなりがその時点で起こる可能性が限り無く高くなるのではないかと、という疑問です。しかしそうはなりません、なぜなら、この2012年の12月21日ごろに起こるといふ予言を信じているように見えて、実は信じておられない方が残念ながら今の時点では多くいらっしゃるからです。たとえば、今のこの現実世界が辛いから2012年の冬至にそのようなことが起こればいいな、と期待していらっしゃる方々です。このような方々は、2012年の冬至に「暗黒の三日間」或いはアセンションが起こることを意識しているように見えて、実は目の前の現実世界の行き詰まりを、その予言をかくれみのにして逃れたい、という意識でいらっしゃる場合が多いです。

ですから極端に言いますと、そのような方にとっては2012年の冬至に「暗黒の三日間」或いはアセンションが起こっても、また闇の勢力側が提示する「世界統一の仕組み」が起こっても、目の前の現実から逃れさせてくれるならば、どちらでも良い、ということになります。むしろ2012年の冬至に「暗黒の三日間」或いはアセンションが起こらなかったことのショックから、闇の勢力側のシナリオにすんなりと乗っかってしまう可能性が、その時点では相当高くなっていると思われる、ということです。

もちろんその方の表層意識では、これだけ私は2012年の冬至の予言を信じ、それに伴う情報を隈なく収集し、またずっと楽しみにして来たのに結局何も起こらなかった、私は裏切られてしまった。私がこの数年、或いはこの数十年信じてきたものは一体なんだったのだろう。と、何かも失った気持ちで落ち込みます。また、そのような予言を発信してきた者や、その情報源としていた方々には敵意や憎悪を持つことさえあります。闇の勢力側は、まさにその瞬間を待っているといっても過言ではありません。

つまり、人々がそのような意識状態に居る中で、「新世界秩序」によって全世界のあらゆる問題が片付く、と、テレビや新聞などで大々的に発表すれば良いのです。そして世界中の大統領や総理大臣などの要人たちが、また世界中の宗教指導者などが、それに向かって拍手喝さいを送っている姿を繰り返し放映しておけば、後は自動的に徐々にその「新世界秩序」のシナリオが完成する、というわけです。

もちろん、そのような方は今までずっとアセンション関連の情報を集めてこられた方ですから、その「新世界秩序」は闇の勢力側のシナリオだ、ということは重々承知の上です。しかし、そのような意識状態の中、実際にテレビの画面に映る国内国外問わない専門家の意見の数々、場合によっては自分が信じている宗派の偉い方々や、また自分が支持しているアセンション、またはスピリチュアルな事柄に関する本を執筆した著名な方々の、その「新世界秩序」のシナリオに対する肯定的な意見によって、容易に流されてしまう可能性があります。

そして最後の最後には、今まで悪い悪いと言われてきたけれど、いざその「新世界秩序」の話を聴いてみると、どう考えても悪いところは見つからない、いや、むしろこのシナリオが一番良かったんじゃないだろうか。もしかしたら2012年の冬至に何も起こらなかった代りに出て来た最善のシナリオがこの「新世界秩序」のシナリオなのかもしれない。というよりも、もしかしたら今まで予言されていたアセンションや次元上昇というのは、この「新世界秩序」のことだったのではないだろうか、と徐々に思うようになって行き、その闇の勢力側のシナリオを何の抵抗も無く受け入れて、そして支持して行くようになり

ます。

しかしその「新世界秩序」のシナリオを受け入れ、世界規模で一斉にその制度が始まったころには、そのシナリオの中に含まれる本当の恐ろしさを知ることになります。そして、もうその時点では、いくら「新世界秩序」が人類に良い影響を及ぼさない、と判っている方がいらっしゃっても、もう手も足も出せなくなります。そして指を加えて人類の破滅を見ていなければならない、という本当の後の祭り状態が待っています。

さて、話を戻しますが、その彼らの「新世界秩序」のシナリオを完成させるには、どうしても第三次世界大戦が必要になって来ます。なぜなら、その大戦がないと「新世界秩序」を人々に受け入れさせることが出来ないからです。仮に、今の時点でなまじそのような発表を行えば、次々に反対意見や反論や疑問が出て、たちまちの内に潰されてしまいます。彼らが今まで長い間仕組んで来た苦勞が水の泡になってしまいます。しかし、第三次世界大戦（＝ハルマゲドン）が起こった後では、話が別です。

そしてその「新世界秩序」のシナリオの完成を最も効果的に発揮出来る時期が、マヤ文明などの予言にはじまる2012年の冬至、ということになります。

つまり、2012年の冬至にその「新世界秩序」を発表させるためには、すでに今の時点から第三次世界大戦を人々に起こさせ、それに伴った世界的規模の経済的な大混乱、またその大混乱によって生じる極度の食糧不足、そして今までの社会制度や貧富の差に対する人々の不平不満の爆発、などなどを次々に、またそれらを複合的に起こさせ、世界全体を失意のどん底に突き落とし、その反動として今の穴だらけの社会制度に変わる新しい社会制度を世界中の人々が求めるように、そしてまた全てを救う奇跡的な「救世主」を求める声が、そこら中から出て来るような方向に持って行かなければならない、ということです。

そのように逆算して考えれば、すでに今の時点でハルマゲドンは起こってもおかしくない、という予測が立てられると思います。現に今の中東情勢を見て頂ければ、納得できるのではないのでしょうか。

そして、そのハルマゲドンを食べ止める方法を考えた時、唯一対抗できるのが2012年の冬至を待たずに、すみやかに私達が「暗黒の三日間」によるマスアセンションを実現させることだと私自身は思っています。

また今年の3、4月までに「暗黒の三日間」が起こらず、ハルマゲドンに突入すれば、恐らく「暗黒の三日間」が実現する可能性は2012年の12月21日ごろまで、加速度的

に小さくなって行くと思われます。なぜなら春マケドン（＝ハルマゲドン）という日本における東海・東南海・南海地震の大惨事、また世界における第三次世界大戦が始まると、人々はそのような祈りなどを出来るような状態では、肉体的にも精神的にも無くなって行くからです。そして結局最後には、2012年の冬至には「暗黒の三日間」は起こらず、その代わりに「新世界秩序」が発表される、という事態になりジ・エンドとなります。そうなった場合、おそらく「新世界秩序」が発表された当初は世界は一旦纏まり、全てが解決したかのように見えますが、2013年の節分あたりから、その制度の綻びが見え始め、後は2015年秋の終わりの時まで、ノンストップの流れとなるでしょう。

ada775 様、また何か疑問などがあれば遠慮なく仰って下さい。私が答えられる範囲であれば、いつでもお答え致します。実は、今もそうですが私自身の現実的な生活がとても忙しく、これからさらに忙しくなる予定がすでに決まっております、まとまった時間が今後さらに取れなくなって行くと思われます。ですので、まだ時間が取れる内に、出来るだけのことを書いておきたいと思っておりますので、よろしくお願ひ致します。

以上です。

by 暗黒の三日間 (2012-01-21 21:50)

(質問 7)

さて、” 暗黒の 3 日間” 様から、今のうちに他の質問を・・・と言われましたので、もうひとつ質問させていただきます。

今回の暗黒の 3 日間で起こるクオントムリープに伴い、私たちの肉体の DNA が変容しケイ素を主体とするクリスタルボディに変容するとありましたが、一部のサイトや書籍では、「肉体の構成が不純物（多くの合成化学物質、界面活性剤、合成ビタミン、人工甘味料、合成アミノ酸）などに汚染されていると DNA の変容がうまくいかない可能性があるので、常に食べ物に気をつけなさい」というようなことに言及しているものがありますが、それはどうなのでしょう？

また、肉体の損傷（怪我、病気等）により、臓器の一部機能不全、四肢を失った場合あるいは、歯の合成物への置換、人工関節などによる置換術が行われた肉体の場合、クオントムリープがうまくいくのでしょうか？

さらに、神経系統の機能不全、痴ほう症、神経衰弱、遺伝的な脳機能障害（パーキンソン症、ダウン症候群）などの場合もどうなのでしょう？

もう一つは、最近話題になっているような脱法ハーブ類のような脳内麻薬類似物質や麻薬、阿片などの脳内麻薬物質を使用した場合の肉体への影響とクオントムリープの可能性はどうなのでしょう？

このような方々は一度肉体の死を通過し、そのあとでアセンション語の世界に移行するのでしょうか？

(回答) 2012 年 1 月 22 日

ada775 様へ

お答え致します。

> 肉体の構成が不純物（多くの合成化学物質、界面活性剤、合成ビタミン、人工甘味料、合成アミノ酸）などに汚染されていると DNA の変容がうまくいかない可能性があるため、常に食べ物に気をつけなさい」というようなことに言及しているものがありますが、それはどうなのでしょう？

全く問題ありません。仮に、故意的にそのような不純物を取ろうと思って取っている方も問題ありません。「暗黒の三日間」が起こり、その中で一度（ひとたび）「DNAの変容」が起これば、もう自分の意志では後戻りできません。自分の意志で心臓の鼓動を止められないように、自動的に進んで行きます。

また自らの健康のためにそれらを避ける、というのもそれはそれで構いません。アセンションがしたいのでそれらを避ける、というのも、それも一つの体験ですから、それも構いません。要は、そのような見える形を気にする前に、自分の心がどのような状態なのか、今自分の心がどう感じているのか、自分はどうしたいのか、を考えて頂ければわかると思います。

そしてたぶん、この答えは ada775 様ご自身の心の深い所で思っていた事とほとんど一致しているはずです。どうぞ ada775 様に限らず、それぞれの自らの内なる答えに自信を持ってください。もちろん、ご自身の意見を客観的に見るために、また確認するために、私にご質問されたのもよくわかります。しかし慣れてくれば、誰かに確認を取らなくても、ご自身で全てを判断出来るようになります。ぜひ、いつもそのような状態で居られて欲しい、と個人的には思っています。

また、私の個人的な意見ですが、その「DNAの変容がうまくいかない可能性」という考え方は、今の次元の考え方でアセンションを理解されようとしている意見のように感じます。

また余談になりますが、過食症などによってそのような物を過剰に取ってしまう方は、ご自身の心の中に何か足りない所があって、それを補うためにいろいろな物を食べてしまうことが良くあるようです。奇しくも食べ物を食べるのも口からですし、また言葉を発することも口から発します。一概には言えませんが、そのような方は、身近な方を初めとした周囲の人に、何かを言いたい場合が多いように感じます。しかし、中々言えないような環境、またご自身で自分の意見を言っはいけない、というような思い込みから、その言えないストレスを食べ物などで補っている場合が多いように感じます。ですから、過食気味の方は、その「過食」という見える形を見る前に、まずご自身の心を見てみて、整理することから始めることをお勧めします。

>あるいは、歯の合成物への置換、人工関節などによる置換術が行われた肉体の場合、クオンタムリープがうまくいくのでしょうか？

通常の死を経験する場合を考えて見て下さい。もし肉体の中に人工の物が埋め込まれて居

でも、問題なくあの世に行けることは容易に想像できますよね？ 肉体から霊体が脱皮するように抜けて、あの世へ行きます。それと同じことです。ただクオントムリープの場合、肉体、つまり亡き骸を残さずにそのまま霊の体に移行する場合があります、という違いだけです。

また、今の段階では信じられないかもしれませんが、次元上昇後はその人工の物が、自分の歯であったり関節であったり肢体であったりと、そのまま気付けば自分の体に置き換わっていることもあります。これは本当に全てが「想念のまま」になるがゆえに可能になるということです。もちろん元の人工の物に戻せることもできます。

それどころか、次元上昇した世界では90歳の老人が10歳の子供に一瞬して変わる、などということが普通に起こるといような、今の次元では想像出来ないような世界が広がっています。今は到底信じられないでしょうが、アセンションすれば全てが判ります。

また、そのようなプロセスをスムーズに進めるためにも仮死状態という状態が設けられている、ということです。

>さらに、神経系統の機能不全、痴ほう症、神経衰弱、遺伝的な脳機能障害（パーキン症、ダウン症候群）などの場合もどうなのでしょう？

これについても全く問題はありません。判り易く言うと、私達の肉体は、また表層意識は、より深いレベルの自分から考えれば乗り物のようなものです。クオントムリープをするというのは、その乗り物から降りて本来の自分の姿に戻る、という言い方も、ちょっと荒い説明になりますが、出来ます。つまり、今自分がボロボロの車を所有していても、自分の身体や心がボロボロではないように、一度（ひとたび）クオントムリープを果たし次元上昇した時には、その方の素のままの御魂（=身魂）に戻っていますから、全く問題はありません。

またこれも、今の次元ではちょっと信じられないかもしれませんが、むしろそのような（神経系統の機能不全の）体験こそが、より高い次元から見れば中々に出来ない体験であり、その高い次元から見れば、その体験自体が宝であったことが判ります。

>もう一つは、最近話題になっているような脱法ハーブ類のような脳内麻薬類似物質や麻薬、阿片などの脳内麻薬物質を使用した場合の肉体への影響とクオントムリープの可能性はどうなのでしょう？

これも見える形で見るとはなく、霊的な角度から見れば判るかと思います。つまり、そのような（違法合法問わず）ドラッグに手を出すような方は、その方に何か足りない部分、満たされない部分があって、それを補おうとする所から、その現実が起きているわけです。ですから、そのような方は「暗黒の三日間」の仮死状態の体験の中で、自分が今まで手を出してきたドラッグの、その根源的な原因と向き合うことになります。たとえば親から虐待されたから、学校や職場でイジメられたから、自分には生きている価値がないと思っていたから、悪友に誘われてなんとなく始めてしまった、興味本位から、もしかしたら大麻で悟れるかもしれないと思ったから、などなど、いろいろとあることでしょう。

その様々な原因の、そのまた根本的な原因を、その「仮死状態」の中で体験し、またその中で得た気付きによって、またそこからいろいろと体験して行くことになります。たとえば、これまで現実の体験として親に虐待されていたけれども、その「仮死状態」の体験の中では、その親がまるで自分が望む理想の父親像や母親像そのままであったりして、虐待された幼いころの体験を、全く違う形で体験する、というような場合もあります。そしてその体験を経ることによって、たとえば、もしかしたら自分はドラッグには手を出さなかったかもしれない、と感じたり、自分はドラッグを求めていたのではなく、親の愛情を求めていたのだ、などなど思ったりする中で、自分自身のこれまでの反省や、自分が本当に求めていたものなど、いろいろと出て来たり、また、今まで親に言えなかったことを素直に、その体験の中で述べたりする中で、自らの意識が統合されて行くわけです。

そのようにして、最後はその意識の統合が終わり、全てがスッキリした意識のまま、自然とクオントムリープを迎える、ということです。そしてその「スッキリした意識」が、今までのどのような物質にも影響されない輝いた半霊半物質の身体、すなわちライトボディを作り上げます。ちなみに、ひふみ神示には「原爆も水爆もビクともしない肉体となれる」とあります。

>このような方々は一度肉体の死を通過し、そのあとでアセンション語の世界に移行するのでしょうか？

いろいろなケースがあります。ドラッグをした人と一口にいても、たとえば一度はドラッグに手を出してしまったが、しかしその後ものすごく後悔をし、そしてものすごく改心をして、その禁断症状に苦しみながらも、再びまたドラッグに手を出さないようにずっと頑張ってきた人もいます。そのような方は、普通の方よりも何倍も忍耐力や集中力が身についている場合があります。また、生まれる前にあらかじめそのような体験（＝気付いたらドラッグに手を出してしまった体験）をわざとするように自らプログラムし、そのプログラムの続きの体験（＝手を出してしまったがこれを克服する体験）を見事こなされる方

もいらっしやいます。

ですから、ドラッグに手を出しているからといって、アセンションできない、クオントムリープできない、とは一概には言えません。というよりも、この度は全ての方がアセンションします。誰一人、このアセンションから落ちる方は居りません。人類どころか、動物、植物、鉱物を含めたこの世界そのものが救われるばかりか、ひいてはこの世界と連なる三千世界（=あらゆるパラレルワールド）までもが救われて行きます。この度のアセンションは、我々の想像を超えた所での救いがなされます。我々が思っている以上に、このアセンションがどれほど重要であるかを、ada775様を初めとして、皆様の中で今一度ご認識頂けたらと思います。

また、この「暗黒の三日間」の中での体験及びクオントムリープは、何度も繰り返すようですが、まさに一人一人の為に起こるものですから、基本的には自分に縁の無い他人様の体験やクオントムリープの瞬間を見ることは出来ません。それはちょうど、自分が夜眠って夢の中に居る時に、他人様の夢の中を覗こうとするようなものです。もちろん夢の中で「他人様の夢を覗こう」としている自分の夢は見られるかもしれませんが、それとて自分の夢の中での出来事であることは、起きてみれば一目瞭然のことではないでしょうか。

by 暗黒の三日間 (2012-01-22 17:14)

(質問 8)

ada775 様

いつも拝読し、心から感謝致しております。この場をお借りして、暗黒の三日間様にご質問をさせていただきます。

暗黒の三日間様へ

私は 30 代の既婚女性で、妊娠を希望しております。

暗黒の三日間で、胎児はどのような影響と変化を受けるのでしょうか？

一つの命として、肉体が未完でもアセンションは可能でしょうか？

ご多忙の中、未熟な質問で恐縮ですが何卒宜しくお願い致します。

by 蔵の民 (2012-01-22 01:20)

(回答) 2012 年 1 月 22 日

蔵の民様へ

>暗黒の三日間で、胎児はどのような影響と変化を受けるのでしょうか？

>一つの命として、肉体が未完でもアセンションは可能でしょうか？

まず、普通に考えれば肉体が未完な胎児だとしても「生きようとする意志」が脈々と感じられることはご承知のことかと存じます。また当然ながら、母親、父親も子供が無事生まれることを願い、また健やかなる成長を願うことと思います。結論から申し上げれば、この胎児の「生きようとする力」とご両親の「見守る」という想いの力、想念の力、意志の力によって何の問題も起きません。

また妊娠すること、孕むことを身籠る（みごもる）と言いますが、まさにその身に子守る（こもる）わけです。ちなみに守るは「まもる」とも読めますが「もる」とも読めます。そして、恐らく蔵の民様が実際に妊娠なされた時には、このような消極的な質問はなさらないはずで、間違いなく、自分自身の意志で身籠ったお子さんを守ろうとしますし、母子共に、また家族共にアセンションすることを何が何でも願うことでしょう。或いは妊娠した後は気が変わって、アセンションすることよりも、お子さんの身を案じて無事に出産出来ることを第一と考えるようになるかもしれません。そのどちらをお思いになられても構いません。その時のご自身の気持ちに任せれば大丈夫かと思われま。

ちなみに母子共にアセンションすることを願うならば、その想念の力が、意志の力が、母子揃ったアセンションを実現させますし、また今のこの時期に生まれてくるお子さんも、魂的には自分も今アセンションする時期だと十分に判って母親のお腹の中に居ますので、全くもって問題ないです。

また、アセンションのことはやはり信じられず、まず第一に出産のことをお考えになられたとしても、結果的にアセンションすることになるでしょう。なぜなら、この場合も「暗黒の三日間」の中で、必死にお子さんの命を守ろうと、無事出産が出来るようにと思うからです。結果、その想いの力がお子さんを守ることとなります。案外その「暗黒の三日間」のビジョンの中で、お子さんから「そんなに心配しなくても大丈夫だよ。」とのテレパシーを送ってくるかもしれません。

といっても今年の3、4月までには「暗黒の三日間」が起きるので、そこまで考える必要はないかもしれませんが、出産間近の方もこの文章を見るかもしれないので、一応書かせて頂きました。

また「暗黒の三日間」の中で仮死状態になった時の胎児の影響と変化についてですが、これは一つのケースとしての話ですが、上にもちらっと書いたように、たとえばお腹の中にいらっしゃるお子様と生まれる前からテレパシーでお話する、というパターンもあります。また、三日間も食事も取らずに大丈夫なのか、などなどの疑問も出るかもしれませんが、もうその時は体的な栄養よりも霊的な栄養のほうが、つまり胎児の「生きようとする力」とご両親の「想いの力」がより重要になっていまして、逆から言えばその「思い」という栄養が新しい肉体を息吹かせるので心配はありません。

また別のケースでは今にも生まれそうなケースもありますが、その場合は「暗黒の三日間」の中で、たとえば（現実的には家に居たとしても、そのビジョンの中で）今まで通っていた産婦人科の病院などで、その妊娠をお子様と共に体験する、というような場合もあります。この場合「暗黒の三日間」が起こった後に意識が戻った時、元居た場所で側に生まれただけのお子様がいらっしゃる、というような場合もあります。しかし、ちょっとこの点については今の段階では俄かに信じられない話かもしれませんので、無理に信じる必要はありません。

また、この点についてどうしても気になるのであれば「暗黒の三日間」については一旦お忘れになって、また「暗黒の三日間」の実現を祈ってらした方はその祈りも全部やめて、無事出産出来ることを第一として生活を送って頂けたら、と思います。なぜなら、ご自身

の本心に従うのが一番最善の道で、安全の道だからです。そして思わぬ所で「暗黒の三日間」が起こった時には、どうぞ慌てずに、上で書いたことをちらっと思い出して頂いて無事に出産して頂けたら、と思います。

とにかく大切なのは「暗黒の三日間」の中では「想いの力」が増幅され、その「想いの力」のままにビジョンを見、そのビジョンという名の現実を創造し、そしてその創造された現実がアセンション後の世界にそのまま引き継がれて行く、ということです。それさえ覚えておいて下されば、大抵の心配事はしなくて済むのではないのでしょうか。

by 暗黒の三日間 (2012-01-22 23:08)

(質問 9)

今年の3月～4月という、もう2～3か月ほどしかないということになります。
時々、あと少しでこの世界が全く別の世界に変化してしまうのがいささか信じられない心境になったりします。
それだけ、現実政界への思い入れが強いのかもかもしれませんね。
そのため、頭では理解していても、すべての執着心を捨て去ることが果たして出来るのだろうか？と不安になるところもあります。

そこで、質問ですが、残された期間はどのように過ごすのが良いのでしょうか？

今までできなかった楽しめることをする。
例えば、音楽を聴くとか、ビデオを見る、多くの人と会うとか・・・。
あるいは自然を散策するなど（今は寒く雪も多いので難しいですが）・・・。

一日を静かに瞑想をして過ごす。
仕事はあまり張り切らない。

などなど、いろいろ考えたりしますが、難しいところです。
あまりにも残された時間が少なすぎて。
一日の仕事を終えるだけでその日が終わってしまう感覚です。

全く、ありふれた質問で申し訳ないですが、参考までにお教えてください。
クリスタル様がコメントに書かれていたように自分自身のカルマの解消も大事なことと思います。
しかしながら、3次元における誘惑、欲望も多いことも事実です。
多くの方々も同じなのではないでしょうか？

(回答) 2012年1月23日

ada775 様へ

残された期間の過ごし方についてですが、これは今まで通りに過ごして頂いて構いません。
また、残り時間が少ないということで、今までしようと思いつつ出来なかったことを思い

切ってするのも良いかと思えます。自らの「本心」が何処にあるのか、と試行錯誤してみるのも良いと思えます。

ただ、今までの現実生活や社会生活を捨ててまで「暗黒の三日間」を祈る、或いは瞑想などのそれぞれの思う霊的な生活に入る、というのはお勧め致しません。このように言うと、もう三次元的な世界が終わるのだから、必要がなくなるのだから、現実世界の事は放り出してもいいじゃないか、どっちでも一緒じゃないか、とお思いの方もいらっしゃるかもしれませんが、本来は霊的生活（＝自分の心の中の状態の移り変わり）と体的生活（＝現実的な生活の移り変わり）は分かれておらず一つですから、その片一方を放り出してしまうと、「暗黒の三日間」の中の体験で、その現実世界を放り出した反動の体験をすることになります。というよりも、これは断言致しますが、その「暗黒の三日間」の体験の中で、アセンションする最後の最後の段階の所（＝2012年1月現在の今）で、現実生活を放り出したことを悔やむことになります。

もちろん、今回は誰一人落ちることなくアセンション出来ますから、結果は同じだと思える方もいらっしゃるかもしれませんが、先のお話でも申しましたように「暗黒の三日間」の中では、自分自身の様々な意識状態と向き合うことになります。その中で、自分が至らなかった所は、まさに他の誰でもない、自分自身が評価することになります。

たとえば、全く同じような魂の経歴、また全く同じような今生の生き方をして来た方で、一方はそのまま現実生活を続けてアセンションに臨む方、もう一方はもうアセンションするのだから、と今ここで現実生活を放り出してアセンションに臨む方がいらっしゃると思います。そして、そのお二方がどちらも何かの会社の経営者だったとします。そのようにして、前者はそのまま今の仕事を続け、後者はもう現実世界は必要ない、と逃げるようにして自分の会社の全てを放り出したとします。

さて、前者は目出度く「暗黒の三日間」の中で、自分がこれまで苦勞して経営してきた会社の思い出などを回想しているかもしれません。しかし後者の方は、最後の最後で全てを放り出した、というそのご自身の行動によって、将来を不安に思った従業員の心境を、そのビジョンの中で見せられているかもしれません。見せられているというよりも、それは自分の本心が見ようとして見ている、という言い方が正しいです。

つまり、たとえばその従業員が「理由は判らないが今日、会社のCEOがいきなり雲隠れしまったらしい。ひょっとしたら会社は、もう倒産しているのかもしれない。」などと妻に話し、妻が「じゃあ、これからどうするのよ！！」などと、下手をすると夫婦喧嘩になっているような、そのようなビジョンを見ているかもしれない、ということです。

このようにして「暗黒の三日間」の中で、その従業員の心を通じてそのようなビジョンを見た後者の経営者の方は、ものすごく申し訳ない思いをすることになります。この「思い」は、今感じている自分の数倍、或いは数十倍かもしれません。そして、もうちょっと最後の所でがんばってれば、従業員にこのような必要のない不安を与えずにすんだのに、と、ものすごく悔やむことになるのです。

そして、おそらくこの説明を見ても「だから？ 結局アセンションするんだから、自分は別にどっちでもいいよ。」と思う方は思うでしょうが、しかしご自身が思ってる以上に、その「暗黒の三日間」の中での後悔はかなり歯がゆいものになると思います。また、これは別に脅しや強要ではなく、私から見れば、おそらく後でもものすごく悔やまれるだろうと思うので、今まで通り現実世界を生きるほうをお勧めしますよ、という程度のもので、すから、当然この文章を見てこれから今まで通り現実世界を生きるのも、またそうしないのも、それぞれの自由なのは言うまでもありません。

簡単な説明になりましたが、だいたいこのような感じですよ。

またカルマについては、今回は今までのカルマの50%を減免されることになっています。つまりこの「50%」というのは、本来ならばこれから本格化してくる大地震や核関連の危機などの、今までの人類の溜めに溜めてしまったカルマの放出の体験を、そっくりそのまま免除してもらえ、つまりその体験をする前に「暗黒の三日間」が起これば、無事アセンション出来る、ということです。

もう私達のカルマは自らの手で処理できない所にまで膨れ上がっています。人によっては今の時点ですでに大変な状況だよ、と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし上にも書いたように人類が溜めに溜めていたカルマの本格的な放出はまだ始まっていないのです。そして本来ならば、そのカルマの放出が今年の3、4月ごろから始まるのです。もし50%の減免がなく、100%状態でカルマが放出されるならば当然「暗黒の三日間」は起こらず、その代わりに今年の3、4月から今までの地震の規模とは比較にならないほどの大きな地震がいくつもいくつも起こって来るのです。それに伴って、今まで人々の無意識の中にあつたネガティブな想念が、さらにそのままにして出て来ますから、その起きた地震の中で略奪や食料品などの奪い合い、場合によっては殺人など、もうここでは言えないような悲惨なことが次々に行われていく可能性が大いにあるわけです。もちろんその反対の、人々の本来持っている優しさや思いやりの発露も見られますが、その時は誰も大変苦しい状況に追い詰められていますから、普段であれば出来るであろう心遣いや気遣いなどが、中々に出来ない状況になって行く現実があります。たとえば普段は優しい方が、

そのあまりの空腹の辛さに思わず隣の人の食料を盗んだり、などの行為をしてしまうかもしれません。また自分はまだ良いが、自分の愛する子供がどんどんやせ細って行って仕方なく盗んでしまう、などということもあるかもしれません。そして、そのたった一回の「窃盗」が、たまたまその隣の人に見つかって、さらにそこから思わぬ悪い出来事を引き起こしてしまう、ということも起きるかもしれません。そのようにして全体として見てみれば、かなり厳しい状況に追い込まれて行くことになります。

また全体として見てみるならば、日本では東海・東南海・南海大地震が起こり、それに伴って富士山が爆発します。富士山の爆発自体はまだ日本全体を壊滅させるには至りませんが、この起こった意味はとてつもなく大きいです。この富士山の爆発が、まるで世界中の大地震が起こるスイッチを押したかのように、その日を境に世界中が揺れ動いて行くことになります。その規模はM9どころではありません。そこから中で地面がパカッと割れて、その中からマグマがわんさか出て来るほどのM11、M12などという、理論上有りえないようなとんでもない大地震が世界中のあちこちで起こることになります。と同時に、世界中の火山にも一斉に火が付くことになります。そうなれば世界中の原発がアウトで、またその噴火の火山灰による日照不足や輸送手段の断絶によって世界中の食糧事情がさらに悪化し、それがさらにさらに酷い状態へと繋がって行き、最後にはこの地球世界そのものが人類の住めない星になってしまうわけです。それが2015年秋に人類が滅亡する、という意味です。

また、闇の勢力側はそうなった時には、そそくさと地球製のUFOに乗って、火星や月に一時的に避難して、ほとぼりが冷めたころにまた地球に帰って来るような計画もしていますが、すでにその時には闇の勢力側の想像を超えた自然的な破壊があつて、この方達も結局地球に戻ることは出来ないまま、最後は消えて行くことになります。

このことから判るように、仮に人類のカルマが100%放出されるならば、4月以降に全国の原発を止めたところで何の意味もなく、原発停止中の冷却も東海・東南海・南海地震を初めとして全国に広がる地震によって完璧に寸断され、全国各地にある原発がその地域の地震が起こる度にメルトダウンを起こす、というとんでもない事態になってしまいます。ですから、今の時点で神様が全ての尻拭いしてくれるのです。それが50%のカルマの減免の意味です。ですから「暗黒の三日間により全ての身魂が救われました。ありがとうございました。」と先にお礼を神様に述べておくのです。

(質問 10)

暗黒の三日間さん、たびたび貴重な情報をありがとうございます。

これから忙しくなるとの事ならば、このような貴重な情報を伝えられなくなるのでしょうか？ならば、それは大きな損失です。

我々には、アセンションよりも重大な事はないと思います。あなたのような情報を持つ方ならば、伝え続ける義務があるのではないのでしょうか？

その忙しい状況とは、そんなに大切なものなのですか？

不謹慎な発言かも知れず、大変な失礼かと存じます。しかし、我々では、あなたのような知識を得られないのです。どうか、時間を都合して頂き、少しでも発表の場を作ってください。お願いします。

by 川瀬 (2012-01-23 05:10)

川瀬様へ

本来は霊的生活（＝自分の心の中の状態の移り変わり）と体的生活（＝現実的な生活の移り変わり）は一つなのです。これはちょうど火と水のような関係で、この二つが一つ揃ってこそ火水（カミ）に成れるわけです。ですから、現実生活を捨てて霊的生活だけに入っては逆に何も得られなくなってしまいます。今回の話でいうと、私が今の全ての現実生活を放り出して皆様の質問なり、或いは自分の直感に従って情報を出していったとしても、その質問に対する答えや情報の精度は徐々に下がって行き、最後には皆様の質問に対する答えは的外れなものになって行き、またどれほど私自身が自分の中の直感に従って「情報」を出したと思っても、その「直感」自体の精度が無くなって行きますので、ついにはその情報すらも妄言や戯言に成り下がってしまい、最後には皆様の足を引っ張ってしまいかねない事態に陥ってしまいます。そしてなにより、唯一の救いである「暗黒の三日間」がついには起こらずじまいとなってしまう危険性があります。さらに皆様にとっては、最初はすごい情報のように思えたのに、結局何の役にも立たないガセネタだった、という風に映り、最後には一笑に付されて終わってしまう、というオチになるからです。

また逆から申すならば、今のこの忙しい現実があるが故にこれまでの情報を出すことが出来ている、とも言えます。ぜひ、そこの所をご理解頂けるとありがたいです。また、お気持ちは良く理解できますが、私自身はこの情報を出す「義務」は無いものと考えております。仮にその「義務」が生ずる時があるとするれば、それはこの情報に対しての何らかの対

価を川瀬様から、或いは皆様から貰った時である、と考えております。しかし私はそんなものは求めておりませんので「義務」は無いものと考えている、ということです。

さらに申しますと、自分としては最大限に自分自身の「直感」を磨きに磨き、また練りに練った後で出した「情報」ではありますが、しかしその精度は皆様にご判断頂くしかないと考えております。そして、あくまでも「暗黒の三日間」は私が起こすのではなく、私を含めた皆様のお力で起こすものだと思っています。そしてまた、起こせるものと信じております。

さらに、私の感覚としましては「暗黒の三日間が今年の3、4月までに来る」という情報を皆様にお伝え出来たことだけが重要であり、その他は全てその情報を補完する意味ではないと考えております。今後出すであろう「アセンション後の世界」についても例外ではありません。そして、これからも出来る限りの「情報」は伝えて行こうと思っていますが、お約束までは出来ません。なぜなら今は時間の加速度がものすごく、次の瞬間さえ予測できない今だと私自身が思っているからです。どうぞ、そこの所も一緒にご理解頂けると大変ありがたいです。

そもそも、私と致しましては皆様からこのような色々なご質問が来るとは思ってもみませんでしたし、元々は「暗黒の三日間」についてのお話と、そして「アセンション後の世界」について書くだけで終わらせて、後は忙しい現実に戻ってそれに没頭しようと思っておりました。ですので、今後ご質問への回答が出来ない場合も御座います。どうぞ、ご了承下さい。

(質問 11)

お疲れさまです

暗黒の三日間さまの多大に有益な情報は

私に安心を与えてくださってます

本当にありがとうございます

機会損失になるのは非常に厳しいです

3月まで残りの時間は僅かです

暗黒の三日間さまの時間を頂いていることに

心から感謝致しますが

あと少しお導きは頂けないのでしょうか？

また失礼と存じますが暗黒の三日間さまの

在りし姿を少しでも教えて下さい

ネットワーク上という非常に匿名性の

ある状況下では自分が信じて進めても

他の人は嫌疑することもあります

今暫くのお導きと、お立場をご教授下さい

こうしてこちらに導かれたのも意義が

あるかと思えます

長々と失礼いたしました

by 匿名性の可否 (2012-01-23 22:58)

匿名性の可否様へ

申し訳有りません。仰っている意味が理解できません。「在りし姿」とはどういう意味でしょうか？

また私としましては、自分が信じているからといって他の方に強要するつもりは全くございません。それは「暗黒の三日間」の情報についても同じです。また嫌われようが疑いの目で見られようが、それはその方の価値観であり見方でありますので、それはそれで私は良いと考えております。

以上です。

by 暗黒の三日間 (2012-01-24 23:41)

最後のメッセージ

2012年1月28日

さて、今回は「アセンション後の世界」について書いて行きたいと思います。今回のお話は、普段アセンションの情報に精通なされている方でもにわかには信じられない、或いはこの話の意味がさっぱりわからない、またはこんな話は到底受け入れられない、さすがに今回ばかりはこの話は論理的に破綻している、この人は大丈夫なのか？ さらには、この話には全く根拠がない、等々お思いの方もいらっしゃるかもしれませんが、全てご自身の直感に問いかけながら、参考に出来る部分は参考にしてください。参考に出来ない、信じられない、とお思いの方は、当然無理に受け入れる必要も、また無理に理解しようとする必要もありません。また、この話はある程度は理解出来るが、部分的に理解できない所がある、話について行けない所がある、という方も、その部分については無理に理解する必要もありませんし、無理に受け入れようとする必要もありません。そのような方は、これから聞くお話は一つのファンタジー、一つのフィクションとして捉えて頂いても良いです。そして、この文章を肯定する否定するを問わず、皆様どうぞご自身の直感に従って考え、そして行動して行って頂けたらと思います。

また、これからお話することは、皆様がアセンションすれば自然とわかることであり、本来は書く必要の無いものです。ではなぜ本来必要の無いものを書くのかと申しますと、それは今回起こる「暗黒の三日間」のイメージをより深くして頂くための材料として、またその「暗黒の三日間」の後に自分はどうなるのか、どうなっていくのか、という、この今の段階での恐怖心や不安感をお持ちの方には、その恐怖心や不安感を少しでも和らげた中でアセンションに臨んで頂くためでもあります。さらにこの文章は、皆様が思っている以上に「暗黒の三日間」の実現（＝「アセンション」の達成）がどれほど素晴らしいことであるかということ、再度認識して頂くためでもあります。

では、本題へ。

「暗黒の三日間」のビジョンを見た後、目出度くアセンションを完了された方々は、まるで眠りから覚めたように再び目覚めます。そしてまるで変な夢を見ていたかのように思い、いつも通り起きて仕事や学校に行かなければ、と目の前の風景を見渡しますが、その風景は以前と同じようであり、全く違う風景が広がっています。次の瞬間、全てが光り輝いていることに驚きます。

そしてその瞬間、アセンションされた方々は一瞬にして全てを悟り、全てを思い出すこととなります。それはちょうど何かを閃いた時のような感覚です。

では、何を悟って思い出すのかというと、それは自分自身が神であり、そしてこの宇宙そのものが神である、ということを知り、思い出すのです。そして大きい自分（＝見渡す限りの大宇宙）の中に小さい自分（＝今ここに存在している意識としての私）が存在して居て、そしてそれらが切り離されて存在しているのではなく、まるで表裏一体のように、まさに一つの意識として認識されている、ということです。

別の言い方をすれば、今までは神様がこの宇宙を創造し、自分という存在もその創造物の一つに過ぎない、と信じていたのがそうではなく、私こそが神様であり、そしてこの私こそがこの宇宙を創造している何よりの張本人であったことに気付く、ということです。つまり今の次元の感覚で説明するならば、今までのような「自分」という概念や意識が無くなり、その代わりに宇宙そのものの中に無数の「自分」を見ることに、また感じるようになる、ということです。

つまり、今までの「自分」という自我意識を超えて、目の前の世界のありとあらゆる意識と繋がっていることが理解出来る、ということです。もちろん、同時に今までのような自我意識もありますので、まさに自我と真我が一つになった状態と言えます。たとえば、他の方も自分と感じますし、目の前の動物や植物、また石ころや空、海、山などの自然にまでこの自分の意識は広がって行きます。そして全てが大きな一つの意識として繋がります。そのようにして他者は別の可能性の自分であり、自分もまた別の可能性の他者であることを認識し、また理解するようになります。認識や理解するだけでなく、そうとしか感じられなくなっています。また、この感覚の中では寂しいとか悲しいとかいう感覚が全くありません、かといって、自分の意識に反して人を含めた動物や植物などの意識が入ってくることもないので、自分の意識に反して誰かが自分の意識を乗っ取っている、という感覚もありません。まさに一人でありながら同時に一人でない、という、今の次元の感覚からすれば、まるで良い所取りをしたような感覚です。

さらにこの時、自分はありとあらゆる時間と空間を超越した世界に存在していることも知ることになります。というよりも、今まで感じて来た「時間」や「空間」は、巧妙に細工された人工的な時空（＝時間と空間）であり、むしろ今まで感じて来た「時間」と「空間」の概念があったが故に、元々の時間と空間の流れを見えなくされていたことに気付きます。

もう少しわかりやすくいうと、アセンション以前の時空とは全く違う、一つ上の次元の時空の中に居ることを知る、ということです。この「一つ上の次元の時空」については、後ほど触れて行きたいと思います。

さて、実はこの時、今までのような三次元的な世界から見れば、アセンションされた方々は半透明になっており、その世界そのものも半透明になっているように見えるのですが、しかし当のアセンションされた方々からすれば、すでにご自身も半透明になっており、また目の前の世界もすでに同じように半透明であるので、全てが水晶のように光り輝いて見えています。

もうお判りのように、この「半透明の空間」こそが、今までの重い波動の三次元的な空間から離れた、もう一つ上の次元での空間ということになります。この空間は、まさにライトボディを有した人のための空間であり、その空間に存在出来ているが故に人々の「想念」が即現実化できるのです。

また、ここで話して置かなければならないことがあります。それは、アセンション後に私達の想念が即現実化するならば、もしかして自分がちょっとでも悪いことを思い浮かべたら自滅してしまうんじゃないか、とすれば、ある意味とても窮屈な世界なのではないだろうか、と危惧される方についてです。

結論から先に言うと、その心配は全く必要ありません。なぜならアセンション後の世界ではその「ネガティブな想念」そのものが、最初から浮かんで来ないからです。信じられないでしょうが、もうその時には善と悪、などという相対的な概念はなくなっています。なぜそうなるかという、実はそのアセンション後の「空間」に秘密がありまして、その「空間」は本当に澄み切っていて、そして輝いているので、アセンション前の意識からすると、その中に居るだけでもう本当に心がどうしようもなく軽くなって行って、そしてどうしようもない至福感が次から次へと湧き出てきて、あまりの気持ち良さに逆に失神してしまうのではないかと、思うほどです。ですので、仮に誰かを傷つけたい、などの思いが湧き上がって来ようとしたとき、もうその「誰かを傷つけたい」という想念が出て来る前に、フッと消えて無くなって行くわけです。というよりも、そもそもそのような想念は最初から存在していません。そして存在してないものは思うことが出来ない、というわけです。つまり、そのようなネガティブな想念は最初からその空間には適応しないと云いますか、近寄れないと云いますか、そこでは最初から存在できないようになっているわけです。

それどころかその空間では誰かを傷つけたい、という想いの反対の、誰かに何かをしたい、誰かのために奉仕したい、という、そのような欲求が自分の中から後から後から湧き出てきます。ですから、誰もが自分の出来ることを自分自身で探し、そしてその中で切磋琢磨して、この宇宙のために一生懸命自分を活かそう活かそうと思うようになりますし、そのように行動するようになります。そしてその奉仕こそが自分の最大の喜びであることを誰もが認識し、またその喜びを味わわんとするために皆が皆、他者に尽くすようになります。

このような状況はアセンション前の世界からするとまるで現実感がない夢物語のように思うかもしれませんが、しかしアセンション後の世界から見るとそれが普通の状態であり、取り立てて騒ぐようなことではありません。またアセンション後の世界からアセンション前の世界を見ると、ものすごく回りくどいことをしており、まるで人々が「いつまでも変化しない時間」という牢獄の中に居るように見えて、その時間という枠組みの中にある空間がとても重たく感じられます。ですので、あのような窮屈な世界の中でよく（アセンション前の）人々は生きていられるな、と思うぐらいです。たとえていうならばニーチェの永劫回帰のようなもので、アセンション後の人から見ると全く同じ日を毎日繰り返しているような感覚に思えます。それは物理的には毎日違う日でも、その人の想念の状態があまり変わっていないことから、アセンション後の人から見ると、そのように見えてしまうということです。

でも、この説明すらアセンション前の世界から見た説明に過ぎず、アセンション後の世界から見ると、アセンション前の世界はそもそも存在していないことになります。それはちょうどアセンション前に存在している私達が、この世に生まれた以前の記憶がないのと同じことです。

そしてアセンション前の空間では「時間」というものがある影響で、原因と結果の法則に多少のタイムラグが起き、悪いことをしてもすぐに悪い結果にはならず、また良いことをしてもすぐに良い結果にはならないので、ついつい悪い方のカルマを作ってしまう、というような特徴がありましたが、アセンション後の空間では想念がすぐに現実として顕れますので、また皆様もものすごい愛に溢れていらっしゃると思いますので、あっという間に、今でいうところの理想郷のような世界が創造されて行き、またその種類と言いますか、一口に理想郷といっても無限に近いほどのバージョンの理想郷があって、その一つ一つの理想郷と言いますが、一つ一つの（大きな）小天国が、さらに大きな大天国を形作って、その大天国がまた大きな超大天国へと続いて行き、という風にどこまでも続いています。

さて、ここでちょっと話を戻しまして、その時のアセンションされた方々の意識がどのような感じであるのか、というのを参考までに書かせて頂くことに致します。なぜこれを書く必要があるかというと、皆様方に「アセンション後の世界」がどういうものかということ、より具体的なイメージで捉えて頂くためです。成功体験をイメージすることで、実際の成功を引き寄せるように、今からアセンションをした後の意識をイメージして頂くことで、よりスムーズなアセンションの達成を促すためです。

そしてもちろん、アセンション後の世界は全ては光り輝く、命が永遠になる、などなどの

情報はすでにご承知の通りであると思いますが、しかしそれは結果であり、ある意味外（そと）の枝葉の情報です。全ては「意識」から創造されたものである、という認識に立てば、重要なのはそこではなく、アセンション後の世界に居る方々の「意識」がどのようなものであるか、を見るべきであり、さらに踏み込んで見てみれば、そのような「意識」に少しでも近づくことが、アセンションをよりスムーズに達成させる手助けになる、ということに気付くことが出来るはずで

そしてこれは「暗黒の三日間」にも同じことが言えます。これから様々な目に見える変化が次から次へと顕れてきて一喜一憂する方もお見えになるかもしれませんが、しかしそのような目に見える変化、たとえば太陽の変化や太陽系の星々の変化、或いは地震や火山活動、政治経済などの世界情勢を含む地球の変化など、それらはさして重要でないことをご認識頂きたいと思います。なぜなら「暗黒の三日間」であればその「暗黒の三日間」が起こったその瞬間には、もうすでにそこで結果が出ているからです。

では何が重要かと申しますと、それは自分自身の心の変化、意識の変化、認識の変化です。おそらく多くの方が太陽系や地球という大きな大きな変化に比べて、自分自身の現実世界を見渡してみると、もちろん変化はしているでしょうが、太陽系や地球などの変化に比べれば自分の変化などは取るに足らないものだ、とお思いの方も多いのではないかと思えます。しかしその小さな小さなごくわずかな変化の中にこそ、最大の恩恵が与えられていることに気付くことが出来れば、積極的に自分自身の意識を変えることが出来ます。そして自分自身の意識が変わって行くということは、今までの現実世界も必然的に変わって行くことになります。そしてなにより霊の世界では永遠性を帯びていますから、自分の意識が変化するという事は、これから以後永遠に渡ってその変化した意識を享受できる、とも言えるからです。そのようにして全ての主導権は一人一人の、そして自分自身の心の中に存在していることが判れば、太陽の変化や地球の変化に一喜一憂することは無くなるはずで

す。と同時に、自らの心の中に揺るぎ無い安心と、また喜びが湧き上がって来ることで

しょう。

またライトボディに成るということは、それはすなわち次元が上がった証拠でもあり、逆からいうと次元が上がらない今の段階でライトボディには決して成らない、ということ

です。それはちょうど、一桁の数字は一桁の数字、二桁の数字は二桁の数字の枠にしか収まらないことと同じことです。「9」はどんなに頑張っても一桁の枠内です。また「99」は、どんなにがんばっても三桁の数字の枠には収まらないのです。無理矢理に二桁の「09」、或いは三桁の「099」の表記にしても同じことです。「9」には二桁目の「0」は無いのと同じなのです。また二桁の「99」は三桁目の「0」はどんなに頑張っても見えないのです。そういう仕組みになっているのです。一桁と二桁と三桁は元々次元が違うのです。

そのためにクオントムリープ（＝量子的飛躍）が起こる必要があるのです。

さらに言うと「8」から頑張って「9」になるのも、「9」から頑張って「10」になるのも同じ「+1」ですが、「8」から「9」に頑張って、そしてその「9」からまた頑張って「10」になって、初めて二桁の世界が見えるのです。ですから「9」の段階までは「1～9」の一桁の世界しか見えていませんが、「10」になった瞬間、いきなり二桁の世界が、「99」までの世界が見渡せるようになるのです。これがクオントムリープ（＝量子的飛躍）の意味です。

ですから、もし今どこかの先生やライトワーカーのセミナーや瞑想に参加してライトボディに成ろうとしておられる方は、そのようなことはすぐにやめるべきです。なぜなら、アセンションを達成していない内から、あれこれと自らのチャクラを開こうとしたりすると、それが返って「暗黒の三日間」の中で、本来必要の無い体験をすることになるからです。そのような方は、むしろ瞑想やセミナーに通う、という特別なことをしなくてもアセンション出来るのだ、という意識を持つことが大切です。

ちょっと内容が脱線してしまいましたが、話を戻してアセンションされた方々の意識がどのような感覚であるのかを引き続き述べて行きたいと思います。

まず、心がとても軽いことが特徴です。嫌なことがあったり、嫌なことをしなければならぬ時、よく「心が重い」などと表現しますが、その逆を考えて頂ければ結構です。たとえば、小学校時代に体験した夏休みの始まりの日や、或いは自分でもびっくりするほどの、とても他人様にはマネできないような大仕事をやってのけた後の爽快感、などなどです。

その晴れた軽い気持ちの数倍、いえ、数十倍の軽い気持ちが常に存在しています。それは自らの魂に眠る種を、アセンション前の世界で大切に大切に育て、そしてそれを開花させたからに他なりません。

重複した説明になっているかもしれませんが、実はこの「心が軽い」というのは魂としての、さらに言うと神としての自らの役割を果たしたときに感じられるものなのです。また軽いものは上に、重いものは下に行くように、軽い心ほど次元が高く、また重い心ほど次元が低いわけです。といってもこの高い低いは相対的な感じ方から来るものであり、軽い心が良くて、重い心が悪い、と言うわけではありません。軽い心がいつのまにか浮いた心になってしまったり、重い心からより強い愛の心が産み出されることもあります。私達は心は一つと思いがちですが、実は一つではなく、いくつもの相反する心、またいくつもの重なる想念から出来上がっています。気分が妙に楽しい時や、またふいに辛く思うときも

あります。

しかしアセンションを達成された方々は、このようないくつもの相反する心の一つにまとめ、そしてより高い次元へ昇華させたことによって、いくつもの想念がせめぎ合う中でのゆらぎが全く無い、澄み切った意識になられた方を言うのです。そしてその澄み切った意識を中心に据えて、また一つ上の次元でその方のやるべきことをなされて行くのです。そしてその世界では、その「やるべきこと」をやること自体が喜びとなっています。

実は今の次元でもそうであり、上でも申したように「神としての自らの役割」を果たすことが喜びとなっているのですが、今の次元ではその自らのやるべきことが中々判らなかつたり、また誰かに言われたことをそのまま鵜呑みにして、それが自分のやるべきことだと誤認してしまったり、またついつい別の所に意識が向いてしまったりして、その肝心の「やるべきこと」を等閑にすることによって、自らの内なる光を閉じ込めてしまった結果、そこに心のゆらぎが生じて来る、という場合が多いようです。

しかしアセンションされた方々の意識は、自らの持つ能力などを誰かのために役立つことを至上の喜びとしていますので、当然そこで繰り広げられる世界は与え合い、満たし合だけの世界であり、皆が皆、ものすごく働き者です。働き者といってもその働きは嫌々しているのではなく、自らの内なる、というよりも、もうその時は内も外も一つになって、その方が全身全霊をかけてその方の思う通りの働きをしており、どこを見渡してもそのような方ばかりですので、あらゆる分野であらゆる最高の物やサービスが行き渡るわけです。そしてその皆に奉仕する働きこそが至上の喜びとなっていますので、当然それら全てが無料です。というよりも、そもそもお金という概念がありません。

またアセンションをされた方は、今言われているようなチャクラは全て消滅しています。それは逆から言えば、身体全体が一つの大きなチャクラのようになっている、ということです。またチャクラを開くだとか、そのような概念そのものが無くなっている、という意味でもあります。本来ならばチャクラの「消滅」ではなく、チャクラの「統一」と言うべき所でしょうし、チャクラが開き切っている、と表現するべき所かもしれませんが、アセンションされた方はすでにチャクラがどうのこうの、という所に意識は全く無く、ただただ自らの中から出て来る愛を表現するだけになっていらっしやるので文字通り「消滅」しています。

重複した内容になりますが、もし未だチャクラを開くことによってアセンション出来るのだ、と思い違いをしていらっしやる方がいれば、今すぐにでもその誤りを正しておいた方が良いでしょう。チャクラが開いた結果アセンションするのではなく、アセンションした

結果チャクラが開くのだ、ということを忘れてはなりません。そしてそのチャクラは「暗黒の三日間」によって開かれます。つまり神様がチャクラを開いて下さるのです。あなたが勝手にチャクラを開こうとすればするほど、神様がチャクラを開いて下さる時にあなた自身が辛い思いをしております。またそのチャクラを開こうとする行為そのものが、自らのアセンションを遠ざけていることを、ぜひこの機会にご認識下さい。また、どこそこの先生やヒーラー、ライトワーカーなどなどに開いてもらおうとする行為も同じであることを、改めて申し上げておきます。

さて、今度はその「暗黒の三日間」を経てアセンションされた方々がどのような世界に移行するのかについて、つまりアセンション後の世界がどのようなものかについて、もう少し具体的に述べさせて頂くことに致します。

人によっては、「暗黒の三日間」の体験をした後にアセンションし、五次元に移動した地球ではなく、五次元に移動した地球に似たような、別の世界へ移動する方も出て来ます。ある意味、五次元より高い次元で並行して存在している地球、とも言えるかもしれません。

また五次元の地球は、次元上昇した全宇宙のいわば博物館的な星になります。要するに、今私達が体験している、五次元の地球へと変化する全プロセスが展示される、ということです。もう少し詳しく言うと、今こうして生きている私達一人一人の、アセンションを達成するまでの長きに渡る体験の全プロセスが、その次元上昇した全宇宙に存在している方々、つまり今より一つ上の次元に存在している無数の宇宙人の方々が自由に閲覧できるようになる、ということです。また、ここでの閲覧できるという意味は、私達の人生をそっくりそのまま、その宇宙人の方々が疑似体験できるようになる、ということです。

たとえるならば、私達一人一人の生まれてからアセンションするまでの人生をそのまま録画して一枚のDVDに収め、そしてそのDVDを宇宙人の方々が、なるほどこのような体験もあるのか、とそれを見て参考にされるようなものです。

ただしこの場合、私達の感覚でいう、たとえば映画などを見て主人公を初めとした登場人物に感情移入し、その映画の中の世界をその登場人物と同じように疑似体験する、というものではなくて、その次元上昇した世界では今いったような感情移入するだけではなく、そこからもう一步踏み込んで、その人の心の中に入り込んで、その人自身となってもう一度繰り返し、全く同じ人生を体験する、ということです。もちろんオリジナルのその人生を歩まれた方は、もう別の世界で別の体験をなされています。

具体的にいうと、たとえば今こうして文章を書いている私自身の人生を、その宇宙人の方々

が「私」となって、また生まれてからアセンションするまでの体験をまるでシュミレーションゲームのように体験するという事です。しかしそれはその宇宙人のオリジナルの体験ではありませんので、この私の体験と全く同じ体験をシュミレートしてから、その宇宙人の方のオリジナルの体験に役立てよう、というわけです。わかりやすくいうと、運転免許を取る時に、実際に運転する前に、その運転席を模したシュミレーションの中で運転して、その中で疑似体験を実際の運転する時の体験に役立てる、ということと同じことです。

そのようにして、私だけでなく、無数のアセンションされた方々の、これまた無数の体験を宇宙人の方々が自由に閲覧できる、疑似体験できる、といったように、五次元の地球は全宇宙の星々の一つのサンプル、または一つのモデルケースとして、その次元上昇した全宇宙の中で貢献して行くことになり、それが延いては無数に創造されて行く星々の星の有り方にも貢献して行くことになる、ということです。

そして今回のアセンションでは、今の次元では宇宙人はいない、或いは他の星での生物がやっと発見された、という段階に過ぎませんが、一つ上の次元の宇宙ではそれこそ無数の星に宇宙人が住んでおり、私達の今回のアセンションに伴って、その二つの現実が一気に一つに統合される時が来た、という側面もあります。

また、今までは何十万、何百万機、何千万機、という空を覆いつくすほどの大量のUFOが突然地球にやって来るバージョンのファーストコンタクトや、またゆっくり時間をかけて、といってもこれは何十年という今の時間的感覚でゆっくりという意味で、宇宙的な時間の尺度からすれば劇的な速度になっていますが、とにかくその期間の中で太陽系にある全ての星々に大きな変化が起こり、そこから突如生物が存在していた、或いは私達よりも遙か上の文明を持った宇宙人からも接触がある、という段階を踏んで、比較的ゆるやかにその類のイベントが行われる予定でしたが、これも時間的余裕がなくなってきたために、一瞬の内に変わる可能性が一番高いと言わざるを得ません。

どういうことかという、「暗黒の三日間」に伴うクオンタムリープ（＝量子的飛躍）によって、そのまま一気に一つ上の全宇宙に移動し、暗黒の三日間が終わった後には天に輝く星々に宇宙人が居ることは当たり前、或いは、前から天に輝く星々には宇宙人が居たじゃないか、という記憶に置き換わっている可能性がある、ということです。そして、その記憶が浮かび上がった後、以前の宇宙、即ち「暗黒の三日間が起こる前の世界」、つまり今私達が存在している世界のことですが、その世界のことを思い出し、その古い記憶と新しい記憶が融合されて行く中で、天に輝く星々に宇宙人が居る、というその事実を混乱無く、またスムーズに受け入れられる下地が作られて行く、ということです。

上にも書いたように、少なくともU F Oが地球上に来てファーストコンタクトが行われる、というシナリオよりも、今ではこちらのシナリオの方が断然可能性が高いことを述べておきます。なぜかという、先のお話でも申しましたように、もう残り時間が無くなってしまったことで、ファーストコンタクトをして地球人に宇宙人の存在を知ってもらって、地球上のあらゆる兵器を無効化し、その後で平和的な条約を結び・・・などなどの、そのような段取りをする時間的な余裕がなくなったからです。

ではなぜU F Oが地球上に来てファーストコンタクトが行われるバージョンを実行できないかと申しますと、人類の今のこのエネルギーが不安定な時期に、なまじファーストコンタクトを起こしてしまうと、それがそのまま戦争に発展しかねない、という懸念がまず最初に挙げられるからです。

なぜなら地球にもすでにU F Oがありますから、仮に一番最初に接触された国、恐らくアメリカ、またはイスラエルになるでしょうが、そのファーストコンタクトのU F Oを宇宙人のU F Oではなく、地球上にあるどこかの敵国のU F Oとみなし攻撃する可能性があるからです。もちろんそのような攻撃を、宇宙人のU F Oは全部無効化できますが、その無効化技術に怯えたアメリカ及びイスラエルが、今度は本当に敵国、たとえばイランなどに先制攻撃を仕掛ける可能性も否定できないからです。そして表向きにはU F Oのことは伏せられ、イランからの先制攻撃あったから、などという理由で、結局第三次世界大戦に突入していくことになるからです。

またアメリカやイスラエルが第一接触者でなければならない理由は、他の国にファーストコンタクトが行われると、表面ではアメリカが、裏面ではイスラエルが必ず乗り出してきて、全世界へのファーストコンタクトの情報開示が出来ない可能性があるのと、逆にそのU F Oに使われている高度な技術を知ろうとして、さらなるいざこざに発展する可能性があるからです。もちろんそのような事が起こればロシアや中国などもいずれその情報を手に入れることでしょうから、そのファーストコンタクトが行われた国を台風の目として、この場合も第三次世界大戦に発展して行く可能性が出て来る、ということです。

また、それらの危険性を全て回避するために、何処かの国によらず、何十万、何百万機、何千万機という天空を覆うほどのU F Oが来るとしても、これまた地球の受け入れる側の国々が、人々がいよいよ宇宙人が地球に侵略してきたと思い抵抗することによって、地球人そのものが自滅する可能性があります。もちろんその時は、その宇宙人のU F O側から全ての兵器を一瞬にして無効化するように強制的になされるのですが、そうなればそもそもファーストコンタクトの意味が消え失せてしまいます。つまり地球人側と宇宙人側の

双方が納得してお互いの存在を受け入れるのではなく、これでは宇宙人側が強制的に地球人に自らの存在を明らかにした、ということになり、地球人側からすれば侵略された、と思込んでしまう方も出て来る、ということです。これでは、最初こそはあれこれと騒がれるでしょうが、長い目で見るとそのイベントによって何ら地球人の意識の向上が見られないことに加え、ファーストコンタクトを行った宇宙人側からすると地球人の意識の向上の機会を妨げてしまった、と結果的にせよなってしまうからです。

ですので、本来ならばその受け入れる側の国々を説得しつつ、また地球人の自助努力での意識の向上を待ちつつ、また太陽系の星々の変化と共に徐々に他の星にも生物がいるという事実が出て来るに伴って、徐々に地球人の意識を異星人や宇宙人に対して抵抗がなくなってきた所で、地球を銀河連盟の一員として迎える、という、本来ならばある程度時間をかけて緩やかにそのような状態に持っていく所なのですが、もう時間が無くなって来たこともあり、そのシナリオは今となってはかなり難しい、ということが言えます。それは逆からいうと「暗黒の三日間」を経てからのファーストコンタクトが行われる可能性が一番高いとも言える、ということです。そしてそのファーストコンタクトは上にも書いたようなバージョンとなり、一部の方々が望んでいるような劇的なものにはならず、とても静かに、そしてとても自然的に行われるでしょう。

ということで、今度は先にお話ししていた「一つ上の次元の時空」について話して行きたいと思います。

そのようにして「暗黒の三日間」から始まった一連の現象によって、今までのあらゆる時間と空間を超越する身体を手に入れることが出来るわけですが、上にも書いた通り、アセンション後の時間と空間、すなわち時空は、今までのような閉じられた時空ではありません。

どういうことかと申しますと、自分の創造するままの空間を作ることが出来、また一瞬にして消滅させることも出来る、という特徴がまずあります。今でもコンピューターグラフィック上ではそのようなことが出来ることはお判り頂けると思いますが、それがそっくりそのまま現実の世界で実現できると思えば比較的判り易いかもかもしれません。

またそれぞれの「想念」により、それらの空間の位置が必然的に決定され、たとえば今の世界と同じように食べ物屋さんが集まった地域や、遊園地などのテーマパークが集まった地域などなどが出来上がって来る、ということです。といってももうこの時は物理的にA駅からB駅まで行く、というよりも、まさに「想念」で行くことになりますので、空間自体が入れ替わるといった現象によって移動することになります。

今の次元で説明するならば、たとえば昔はカセットテープで音楽を聴いていたように、その音楽を聴く時は一番最初から音楽を聴き、そして最後まで音楽を聴けば、また物理的にテープを巻き戻してまた最初から聴いていたと思います。或いは、自分のお気に入りの曲のところまで巻戻したり早送りしたりしていたと思います。しかしその後CDが出てきました、CDは一曲目、二曲目、などのそれぞれのトラックに分かれており、いつも一曲目から、或いは以前聴いた所の曲目から常に始める必要はなく、ボタンを押せば好きなトラックの曲を聴けることがお判り頂けると思います。そして今はそのCDなどの物理的な媒体を介さずにして、音楽の音源そのものをPCなどに入れて楽しんでいます。ですからPCであればそのPCの中に何枚分ものCDの曲を入れることが出来、また曲それぞれも独立した形で入っています。そして曲を早送りや巻き戻しなども出来ると思いますが、たとえば4分の長さのある曲があったとしても、いきなりその4分の曲の中の「2分32秒」の所から再生出来たりします。それと同じことです。

つまり今までだと、一つ一つの生が始まりそして終わりあの世へ行き、そしてまたあの世から生を受けて、という風に輪廻転生を繰り返してきましたが、もうその必要がなくなり、いきなりどの場面にでも飛ぶことが出来る、ということです。そして今までは自分が持っているだけの経験の範囲内でしか体験できませんでしたが、全てが繋がることによって他の方の体験して来たことも自分の体験として体験出来るようになります。今までであれば自分の体験は自分の体験でしかありませんでしたが、もうその時は自分一人の体験は宇宙全体の体験でもあり、逆に宇宙全体の体験の中から好きな体験を自分が好きなように体験し、そしてそこからまた新しい体験を自分独自の体験として創造して行ける、ということです。

要するに他の方の創造する空間で遊ぶことが出来たり、今まで自分が創造してきた世界を、今度はそこから他の方が創造して行く、ということも出来たりします。その時は全てが一つという感覚を皆持たれていらっしゃるの、もう「自分の物」という感覚はありません。その時はすでに「創造すること」が目的になっており、それこそが喜びとなっていますので、むしろ自分が創造した物や事を他の方と共有することが、さらなる喜びに繋がっていることを肌で感じる事が出来ます。

これらのことを今の次元で説明しますと、たとえば全てがタダ、無料であれば街角の本屋さんには即図書館に早変わりし、そこら中にあるスーパーなどはそのままにして自分専用の大きな冷蔵庫となり、また食べ物屋さんには自分によって変わって調理してくれる台所になる、というようなものです。さらに小説や映画、アニメ、漫画などは別の可能性の自分が創造した物であり、ある意味自分が創造したものですから、当然それらも無料で楽しめます。ま

たその他の方が創造した音楽や物語などを出発点として、そこから自分独自の音楽や物語を創造されて行く方もおられます。

さらに、自分自身を創造して行くことが目的になりますから、最初から悪いことをする必要がなくなります。全てが無料なら泥棒や強盗は出来ませんし、泥棒や強盗が居ないならば防犯カメラや監視カメラもありません。また全てが無料なので詐欺などをする必要もありません。また全てが無料ですからスーパーのレジ打ちなどの仕事もありませんし、お金を儲けるために一日中デイトレードする必要もありません。そして当然株や為替で損をするのではないかと、という不安も最初からありませんし、またDVDや音楽や本などを売ったり、また貸し出すことも無くなるので、それだけプラスチックや紙などの資源も使わなくて済みます。

また食う事に困らなくなれば小説や映画、音楽などを創造していく方々は、食べるためではなく、それらを産み出すことに全ての力を使えますから、それだけより質の高いものが生まれてきます。またより質の高いものが生まれてくるということは、それらの創作物を創造する側にとっても、それだけ大きな喜びを味わえる、ということです。また食べ物を作る方々も、その食べ物は自分の子供のように感じていますから、それを育てること自体が喜びとなっていきます。そしてその喜びを皆に食べてもらうことでその喜びが無限大に膨れ上がって行きます。先に申しましたように、もうその次元では全てが自分ですので、他の人がその食べ物を食べれば、まるで自分自身がその方の中に入ったような感覚になって、今度はその食べた方が持つ喜びを同じように共感できる、という風になって行くのです。また物語などを創作する方々も同じで、自分が作った作品が他の方に楽しんで貰うことが喜びとなり、その他者が自分の作品を出発点としてまた違う作品を創造して行くことにも喜びを感じるようになります。

と、こう書くと一部の方にとっては、無料なのは良いが著作権などはどうなるのだ、それでは誰も働かなくなるのではないかと、思う方がいらっしゃるかと思いますが。真実は逆です。その次元では、皆が一生懸命より高い創造性に向かって邁進しています。もちろん、最初は何もせず無料の食べ物や娯楽を楽しむ方も出て来るでしょう。しかしそれらを一通り体験した後、必ず自分も何かを創造して行きたい、という欲求が出て来ます。たとえば小説が好きなら自分でも小説を書いてみようかな、とか、好きな食べ物の品種があれば、自分ならもっとおいしい物を作れるかもしれない、もっとおいしい物を追求したい、と思うかもしれません。そのようにして、全ての方が納得して自分に合った働きをすることになります。そしてその働きは見事に自分に合ったものですから、とても楽しくて、喜びに満ち溢れているのです。そのようにして、今の「働き」とは全く違う、これまた一つ上の次元の「働き」が出て来ます。またどれほど働くかは、決まっていませんし、働くことは

誰にも強制されません。

そもそも働くとは本来は傍（はた＝隣の人）を楽（らく）にさせるという意味なのですが、今は秦（＝はた＝ユダヤ）を楽（らく）にさせることにいつのまにかすり替えられています。それが元に戻る、ということです。

というように、この嬉しい楽しい無限連鎖の世界はまだまだ続いて行くのですが、後はアセンションした後に皆様が実際に体験して頂くということで、今回はこの辺にしておきます。

さて「一つ上の次元の時空」の話に戻りたいと思いますが、とにかくもうこの次元では過去や未来といった概念を超えた時間の中を一瞬にして移動出来たりしますので、その次元では「今日は何年何月何日？」と疑問をもつこと自体がナンセンスであり、その月日や年号すら創造出来ます。

つまり無数にある並行宇宙（＝パラレルワールド）を自由に移動できるどころか、その一つ一つの、また一瞬一瞬の場面から、また無数にパラレルワールドが展開されており、これをひっくるめて表現すると、ようするに私達の想念のままに現実を改変できる、創造できる、ということになり、また私達一人一人のその改変された、創造された現実の寄り集まった現実こそが五次元の世界だ、と言うことが出来ます。

以上、まだまだ説明し切れていない部分も多々あるとは思いますが、今回はこの辺で終わりたいと思います。尚、今回の文章で一応、今までの一連の投稿の締めくくりとさせて頂きます。今のところ、新たな文章を書く予定はございませんので、それも合わせてここでご報告させて頂きます。それでは皆様、今までご覧頂きありがとうございました。

最後に。

ada775様のブログにもある通り、すでに始まっている地球上の全てのピラミッドの本格稼働の作用によって、私達の現実を創造する力が以前に比べて何倍、或いは何十倍にも膨れ上がっています。闇の勢力側は、これらのピラミッドの本格稼働による想念の増幅作用、言い換えれば想念の現実化のさらなる加速の作用に乗っかって、人々を一気にどん底にまで突き落とし、人々の想念を最大限ネガティブな方向に向かわせるようにして、そしてその無限大にまで膨れ上がったエネルギーを一気に破壊の方向の現実へと顕現させ、もう後戻りできないほどの混乱を招く裏側で、自らの計画を遂行しようとしています。しかしすでに始まっているこのピラミッドの本格稼働の作用、すなわち想念による現実化のさら

なる加速自体に善悪はありません。言い換えれば、このピラミッドの本格稼働の作用をうまく使って「暗黒の三日間」をカタストロフィーが始まる3、4月までに実現させれば何も問題はない、ということです。ですから、むしろこのピラミッドの本格稼働は天の助け、とも言えます。

引き寄せの法則にしてもそうですが、彼らの手段はいつもこのようなものです。自らの信じる物と全く逆の事柄を世界に流布し、その裏側で着々と自らの計画を遂行します。たとえば彼らの計画のために使う「お金」を彼ら自身は信用していません。なぜなら彼らにとって「お金」は、自らの計画を成就させるための手段に過ぎないことを知っているからです。そして、その仕組みを全て知っているが故に、彼らの元に莫大なお金が転がり込んで来るのです。たとえば株などでは、一般的にはファンダメンタル面から見てPERがどうのPBRがどうの、またテクニカル面ではこういうローソク足のパターンがくれば次にはこういうローソク足のパターンに続いて行く可能性が高いことが過去のデータから判っているからこうなさい、等々、私達にはそのようにして覚えなさい、それが一般常識ですよ、そうしないと株では儲かりませんよ、株で儲けるためにはそのようなことを一杯覚えなさいといけませんよ、などなど教えておいて、実は彼らはそんなものには頼っておらず、全く別の視点から株式の動きを見ているのです。そもそも、全ての仕組みを知っている彼らは株を売ったり買ったりするという博打はせず、その元締めをします。ですから、私達が株を売ったり買ったりすることで、彼らが儲かるような仕組みがすでに出来上がっているということです。厳密には、その元締めの元締めの元締めぐらいの所に居ますが、簡単に言うとそういうことです。

ですから彼らはどうあっても儲かるのです。そして少しでも危なくなる可能性が出てくれば、その「お金」を使って、またお金だけでなくあらゆる知識や人やネットワークを使って、無理矢理に戦争や通貨危機などを起こして、必ず儲かるように仕向けて行くのです。ですから何も知らない私達にとってはファンダメンタル面、またテクニカル面から見ても最高の会社を選んだはずなのに、たとえば突発的に起きた通貨危機で結局株価が下がってしまった。しかしこれは偶発的なことだから仕方が無い、と思ってしまうということです。そしてまた、これは偶発的なことで自分が買った株価は本来はもっと高い価値があるはずだからまた株価が上がる可能性は大いにある、などなど思って残りの資金で買い増しを行う、等々また引き続き株をしてしまう、ということになってしまうわけです。そして私達が株をすればするほど彼らが儲かる仕組みですから、そのようにして全ての富を吸い上げて行く、ということです。

全てがそのような具合ですから、今回のピラミッドの件も同じで、ピラミッドには私達の想念の現実化を加速させる作用がありますが、彼らはそのことをよく知っているにも関わ

らず、何も知らない私達には、そのような科学で証明できない怪しい物や事は信じてはいけない、と流布しているのです。流布しているというよりも、流布するのはいつも何も知らない彼らの代理人であり、また私達自身でもあるのです。彼らはいつも奥の奥に居り、表には出てきません。ただ何も語らないだけです。

ですから、一見関係のないように見えるユーロ危機や中東情勢、また中国のバブル、アメリカの大統領選挙、日本国内の地震や政治情勢などなど、過去から未来に渡っての全ての問題、または問題になりそうな出来事の全ての噴出が、この3月から4月にかけて始まって来ることとなります。しかし先にも申しましたように、この3月、4月までに「暗黒の三日間」が起こることで、その全ての問題は全て解決することとなります。

ですので、「暗黒の三日間」はいつ何日に起こるのか、またいつの時間帯に起きるのか、ということ意識するのではなく、今この瞬間にでも「暗黒の三日間」は起こるのだ、という意識で常に居て下さい。どうぞよろしくお願い致します。

by 暗黒の三日間 (2012-01-28 16:51)

暗黒の三日間

(質問 12)

初めてコメントさせていただきます。まずはいつも貴重な情報をブログに掲載して頂き御礼申し上げます。特に暗黒の三日間さんの投稿には、私が日頃感じていたビジョンと共通のものが多くあり、大変興味深いものがありました。

特に「暗黒の三日間」という原子レベルの変容が先か、現状の三次元物質世界の大災害が先か、という瀬戸際である状況であることは、直感的にも、現実的状況としても、まったく同感という思いをいたしました。

私は子供の頃より、今世での地球の人生が最後であり、地球の他の存在（人よりも動植物や自然の存在）とともに、新しい世界へと卒業するビジョンをずっと夢見ておりました。

アセンションという言葉を知ったのは、はるかあとになってからです。

現状の政治、経済、物質的な富などにはあまり興味はなく、大災害やカルマなどといったものにも興味はなく、ただたくさんの自然の仲間とともに地球の一部としてともに新しい世界へとワープするようなビジョンでした。

私の誤解かもしれませんが、「暗黒の三日間」さんのお話しで唯一違和感を覚えたのは「これまでのカルマを半分にして全員がアセンションする」というお話しでした。

私の感覚では、多くの方はアセンションを望んでいないように思えてなりません。深いところでは、まだまだ物質世界での学びを願っている人が多く、「この楽しい遊園地でまだまだ遊ぶのがこれからだ！」という魂の叫びが聞こえてくるようです。

特に中国をはじめとする経済成長著しい新興諸国などは、やっと貧乏から脱出し、まだまだ「これから物質世界の楽しさ」を享受したい魂さんが多いように見受けられます。

私が子供の頃から見えていたビジョンでは、1) アセンションを願って地球とともにライトボディに変容する人々、2) 物質三次元世界の学びを希望してアセンションせずに他の惑星や過去の地球に転生する人々、3) 個別の魂が集散的な魂に吸収される人々、4) 出身星や根源宇宙に還る人、5) その他、といったバラエティに富んだ進路が見えます。

それぞれの割合は、この数年は流動的でしたが、現時点ではほぼ確定しているように思えます。

重ねて言いますが、「暗黒の三日間」さんのお話しは90%以上はまったく同感なのですが、「これまでのカルマを半分にして全員がアセンションする」という部分だけがどうしても違和感を感じてしまうのです。

私の感覚では、「暗黒の三日間」ではなく「光の三日間」とも呼ぶべき段階を経て、地球が新しいクリスタル原子で再構成され、それに伴い、ライトボディ化(=クリスタルやレインボーに輝くボディ)となることを魂の深いところで同意した方だけが、変容後の地球さんとともに歩む様子が見えます。

ちなみに、光(ライト)は水と本質的に同じだと感じます。それが正しいければ人はもともとライトボディであり、水と光は同じものであり、単に存在形態(周波数または次元?)が違うものだと思います。

こうした感覚は子供の頃から感じていました。だから神=火水であり、火と水は同じものなんだと思っていました。

また、21世紀になってそれほど遠くない時期に、地球さんと地球さんを愛する存在(動物、鉱物、自然さん、ごく「一部の」人間)が、より精密な光の存在へと移行するビジ

ョンを物心ついたことから見ていました。

そのビジョンは、なぜか古代の縄文人の生活や暮らし、さまざまなアート、技術、音楽、舞踊などの文化に重なって見えてきました。

失礼を承知でご質問させていただきますが、こうしたことも含めて、私が子供の頃から見
ていたビジョンはなにか根本的にちがうのでしょうか？

元来、スピリチュアル系などに疎いもので、アセンションという言葉の正確な意味もろく
に知らずに質問させていただく失礼を重ねてお詫び申し上げます。

by 縄文系日本人 (2012-01-27 23:32)

(回答)

縄文系日本人様へ

私の感覚では、今回は誰一人アセンションから外れることはありません。「2) 物質三次元
世界の学びを希望してアセンションせずに他の惑星や過去の地球に転生する人々」とあり
ますが、これは私の感覚からしますと有り得ない話です。なぜなら、今地球上に存在して
いる人々の一人残らず、もうこの物質三次元世界で学ぶことは何も無いと、私自身が感じ
ているからです。

また、これについて中国のことを引き合いに出されていますが、私の感覚からすれば貧乏
から脱出することと物質世界を楽しさを享受することは別であると考えております。つまり、
アセンション後の世界では全てが無料であり、さらに今とは比較にならないほどの良質の
物質でない物質、つまり半霊半物質の世界を楽しめるわけですから、今の物質世界の楽し
さの何十倍、或いは何百倍の楽しさになる、といっても過言ではないはずで
す。ですので、豊かな暮らしをしたい方もまた、今の壊れかけ寸前の物質世界、或いはまた同じような境
遇の物質三次元的世界を望むよりも、今の物質世界の楽しさとは比較にならない楽しさが
享受できる、というこのアセンション後の世界に入りたいと願うはずだからです。

また「3) 個別の魂が集合的な魂に吸収される人々」についてですが、これもアセンシ
ョンの一つの形態であると私自身は考えていますので、この方々もアセンションする方々と
私は認識しています。そして「4) 出身星や根源宇宙に還る人」についても、これも今の
次元の一つ上の次元に存在している出身星や根源宇宙に還る人々であると思うので、この

方々もアセンションする方々と私は認識しています。さらに「5) その他」についても、おそらく私の認識ではこの方々もアセンションすると思います。

良ければ「その他」の方々の詳細を教えてくださいませ。きっと皆様方の認識がさらに広がる有益な情報となるはずです。そして、それに対する私と縄文系日本人様とのやり取りも、決して無駄にはならないはずです。

また「暗黒の三日間」ではなく「光の三日間」と呼ぶべきなのでは、という疑問も理解出来ます。それも重々承知の上です。しかしながら、一般に浸透している表現は「暗黒の三日間」であると私が判断しましたので、今回はその表現を使わせて頂きました。なぜなら、その方(ほう)が皆様の「暗黒の三日間」(=光の三日間)に対するイメージを起こして貰うのに容易であろう、と判断したためです。またこれは「暗黒の三日間」に対する誤ったイメージを払拭するためにも、この言葉を選ばせて頂いた、という経緯があります。

確かに現象面では太陽の全面に黒点がびっしりと浮かび上がる、という変質が起こることによって「暗黒の三日間」が引き起こされ、その影響で今まで感じられていた太陽の光に加えて、太陽自身が持つ本来の霊的な光がその時点で加わり、それによってライトボディへの変化を遂げるので「暗黒の三日間」よりも「光の三日間」とも言えることが出来ると思います。しかし、それはアセンション後に初めて認識出来るものであり、今の段階ではやはり「光の三日間」ではなく「暗黒の三日間」と表現すべきだ、と私自身は思っております。

また「ちなみに、光(ライト)は水と本質的に同じだと感じます。」についても同感です。私の感覚では、元々は「光の中」に私達は存在しており、次元を降下させる度にそれが「水の中」となり、そして今は「空気の中」に居るように感じております。

そして『これまでのカルマを半分にして全員がアセンションするという部分だけがどうにも違和感を感じてしまうのです。』とのことですが、お話を伺った私の感覚では、縄文系日本人様も『地球の他の存在(人よりも動植物や自然の存在)とともに、新しい世界へと卒業するビジョンをずっと夢見ておりました。』『現状の政治、経済、物質的な富などにはあまり興味はなく、大災害やカルマなどといったものにも興味はなく、ただたくさんの自然の仲間とともに地球の一部としてともに新しい世界へとワープするようなビジョンでした。』と仰っていますように、動植物や自然の存在達とはとても深く繋がっているように感じますが、しかし今の現実的な政治や経済、また物質的な富に執着してしまう人々の意識、また縄文系日本人様ももちろんそうでしょうが、一般社会で生きておられる一人一人の他人様の意識との繋がり方が、ちょっと薄いような感じが致します。さらに突っ込んで言わ

せて貰うならば、「アセンションするしないはその人の選択だから。」と、突き放しているようにも感じます。もちろんそのような自己選択の自由の部分もあるでしょうが、しかしそれで全てが片付けられる、とも私は思っておりません。

そのようなことから、動植物や地球自身のアセンションについてはすんなりと理解出来るものの、一方で縄文系日本人様のようにそれらの自然の存在と繋がることの出来る方以外の、他の方々のアセンションについては中々に理解出来ない部分があるのではないかと私には感じます。

>失礼を承知でご質問させていただきますが、こうしたことも含めて、私が子供の頃から見えていたビジョンはなにか根本的にちがうのでしょうか？

私の意見を述べさせていただきます。おそらく縄文系日本人様の魂の出所はレムリアあたりではないかと思いますが、そのビジョンはもちろん間違いではないですし、私も異論はありません。ただ今回のアセンションはレムリアだけではなく、アトランティスやムーやその他の文明を生き残った方々の魂もひっくるめてのアセンションとなっておりますから、レムリア出身である縄文系日本人様からは中々に理解しがたい所があるのではないかと思います。

おそらく縄文系日本人様からすれば、私の「全員がアセンションする」という言葉に、何か強制的なイメージをお持ちになって、それで違和感を感じられているものと思われますが、私の感覚ではすでに「暗黒の三日間」が起こることが、全ての御魂（=身魂）がアセンションすることに同意した、という風に捉えております。

そしてこの物質世界という遊園地も楽しいですが、アセンション後の半霊半物質の遊園地はもっと楽しいはずで。全ての人は魂の深い所でそのことを十分に理解している、と私は感じています。

(質問 13)

暗黒の3日が個々の出来事とはどうゆう事でしょうか？

特定のの人だけ暗闇に包まれるのですか？

めくらになるのですか？

教えてください。

by 疑問 (2012-01-28 03:36)

(回答)

疑問様へ

全人類が「暗黒の三日間」を体験します。全員が暗闇に包まれます。そしてその「暗黒の三日間」の中で、一人一人が夜眠った時に夢を見るように、それぞれが違うビジョンを見えるという体験をする、ということです。

by 暗黒の三日間 (2012-01-28 18:58)

(ここまで)

(質問 14、最後に)

”暗黒の3日間”様、これまで私のブログを通して、今まで誰も説明しえなかった数々の情報を提供していただき、ありがとうございました。

それらの情報が暗黒の3日間が起こった際に私たちの意識の変容を助けてくれるものと信じております。

ada775 様へ

>しかし、暗黒の3日間が訪れる前に一度メッセージをいただけたと思いますのでそれを信じて待つことにしましょう。

いえ、水をさすようで申し訳ないのですが、もうメッセージはありません。「暗黒の三日間」がいつ起こるかは私にもわかりません。私から伝えるべきことは全て伝えました。強いて言うならば「暗黒の三日間」の実現を以って、私からの最後のメッセージとさせて頂きたいと思っております。ありがとうございました。

by 暗黒の三日間 (2012-01-28 23:21)